



Gグループ フリータイプ 躯体寄せ部材

このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためにも、各種表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容および指示にしたがってください。

■本書の見かた

この取付説明書では、以下のような記号、記載、アイコンを使用しています。

■安全に関する記号と説明

**警告**

・取付けを誤った場合、使用者などが死亡または重傷を負う危険が想定されます。

**注意**

・取付けを誤った場合、使用者などが中程度の損傷・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。

■情報に関する記号と説明

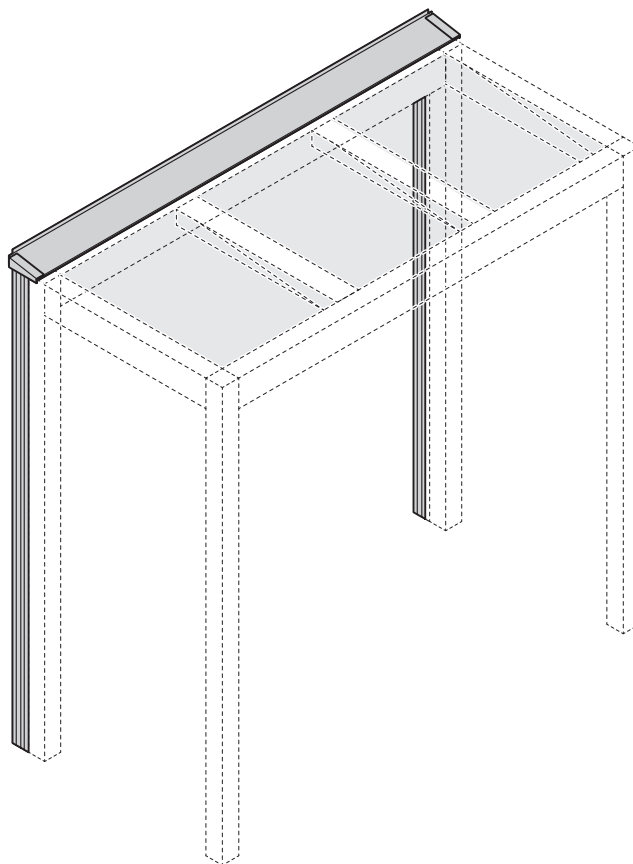
お願い

- ・取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- ・守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

■ねじ等の締結部品の記号

ねじやナット等の締結部品を記号で示してます。(例：1a、1b、2a等)

締結部品の種類は「**■梱包明細表**」を参照してください。



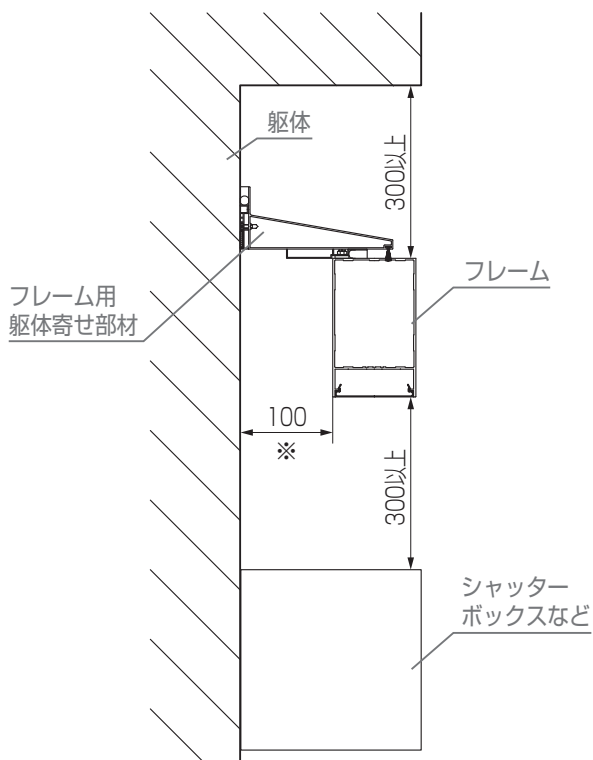
施工の前に

注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 前もって設置場所の確認を行なってください。
- 本製品は、1階設置用です。2階以上には設置しないでください。
- 母屋の屋根から雪が直接落ちない場所に設置してください。落雪により、製品が破損することがあります。
- 躯体に目地や凹凸がある場合は部材取付面をシーリングやバックアップ材を用い、平らに仕上げてください。水漏れの原因となります。
- 本商品の対応可能な外壁材は窯業系サイディングで厚さ14mm以上で、偏心プラグ施工の場合は空気層が12mm以上必要です。
- 製品の分解・改造は、しないでください。

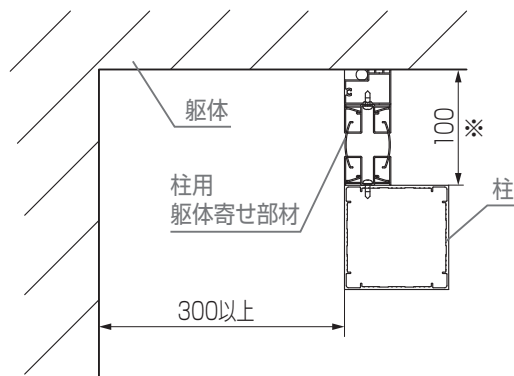
施工前のお願い

- 施工場所に寸法的に正しく納まるか事前に必ず確認をしてください。
- Gルーフ フリータイプのフレームの上下にそれぞれ300mm以上の施工スペースを確保してください。フレームやフレーム用躯体寄せ部材の取付けができなくなるおそれがあります。
- フレームの躯体側の側面と躯体の間は100mmとしてください。(※部)



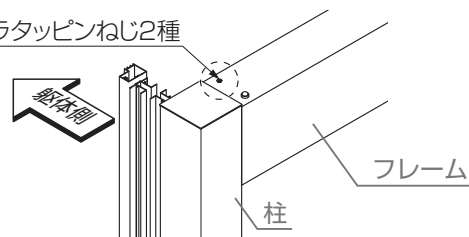
施工前のお願い

- Gルーフ フリータイプの柱の側面は300mm以上の施工スペースを確保してください。柱用躯体寄せ部材の取付けができなくなるおそれがあります。
- 柱の躯体側の側面と躯体の間は100mmとしてください。(※部)



- 90フレームおよび150フレームとも、部材の干渉を避けるために躯体側のねじはφ5×10サラタッピンねじ2種を使用してください。

φ5×10サラタッピンねじ2種



- 躯体に水切りがあるか確認してください。
- 水切りがある場合は位置を確認して柱用躯体寄せ補助部材の切詰め加工を行ってください。
- 水切り下部分のスペースは、水切り下塞ぎ材(オプション)及びネジが必要になります。

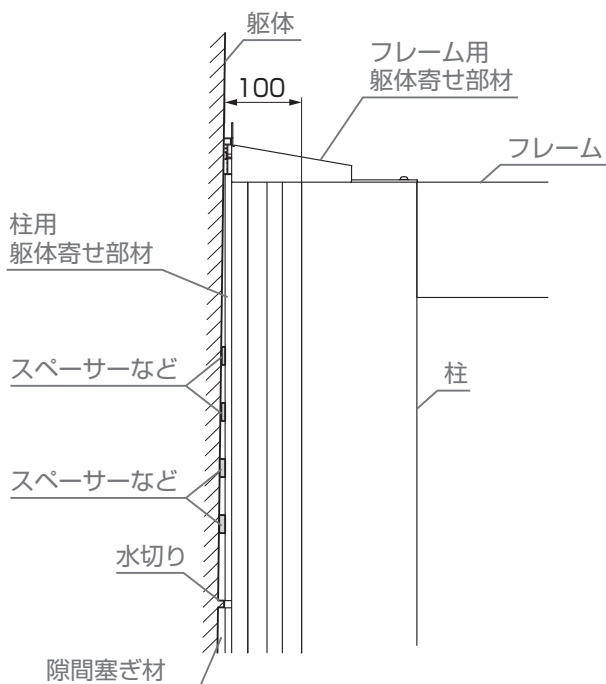
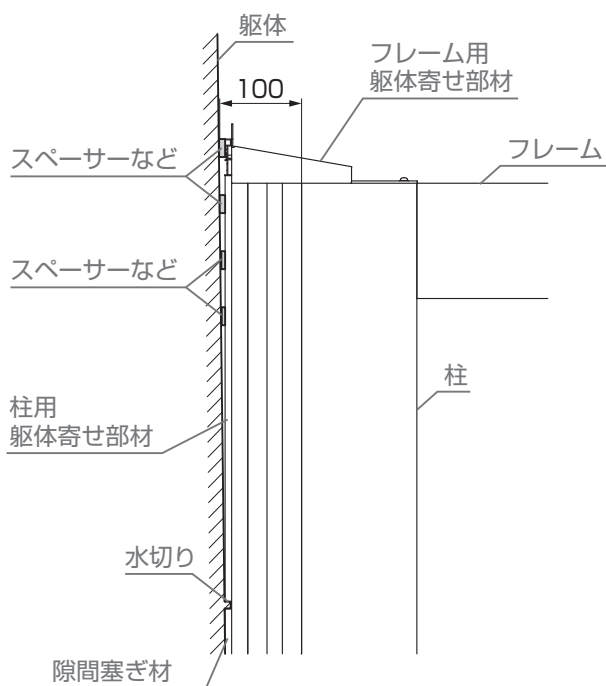
施工の前に

施工前のお願い

- 倒れている躯体への接着固定はできません。必ず偏心プラグで取付けてください。
- 躯体寄せ部材を取付ける躯体(外壁面)が倒れている場合、柱用躯体寄せ部材を偏心プラグでねじ固定時に躯体との間に座金や樹脂板などのスペーサーを使用して躯体寄せ部材が垂直になるようにしてください。

※長いねじ、スペーサーなどは現場手配をしてください。

- 躯体寄せ部材と躯体の間のすき間は、シーリングで埋めてください。(バックアップ材は現場手配)



施工前のお願い

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- Gフレームの取付けに関しては「Gフレーム 取付説明書(E248)」を参照してください。
- Gルーフ フリータイプの取付けに関しては「Gルーフ フリータイプ 取付説明書(E258)」を参照してください。

施工上のご注意

▲ 注意



- アルミ製品が異種金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 水濡れの原因となりますので、指定の箇所にシーリングをしてください。
- 躯体壁面との止水に使用するシーリング材は、必要により設置する躯体に適したものを現場手配していただくか、当社指定品を使用してください。
- シリコンシーリング材を使用する場合は、当社指定の脱アルコール系シーリング材を使用してください。

シーリング材メーカー	品名および品番
信越化学工業（株）	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン（合）	トスシール380
ダウ・東レ（株）	SE960



- ねじは当社指定品を指定本数使用し、下記締付トルクで固定した後ゆるみがないか確認してください。強度低下などの原因になります。
〈推奨トルク〉
※φ4ねじ：2.5N・m±0.5N・m（25±5kgf・cm）
※φ5ねじ：3.0N・m±0.5N・m（30±5kgf・cm）
- 施工時に製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。アルミなどの金属が腐食し強度低下の原因となります。
- 柱埋込み時には水抜き穴を塞がないように施工してください。柱の腐食が促進するとともに、溜まった水が凍結し破裂するおそれがあります。
- 組付け後、必ず鋭利な切断面やバリが露出していない事を確認し、修正してください。ケガをするおそれがあります。
- 施工終了後は、ねじにゆるみがないか確認してください。強度低下などの原因になります。

施工前のお願い

- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- 本体側の屋根材取付前に施工を終えてください。
- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。

チェックリスト

※下記項目は重要事項ですので必ず点検してください。

No.	ページ	チェック内容	
1	16	柱用躯体寄せ補助材にシーリング処理をしていますか？	<input type="checkbox"/>
2	20	フレーム用躯体寄せ補助材にシーリング処理をしていますか？	<input type="checkbox"/>
3	21	フレーム用躯体寄せ部材にシーリング処理をしていますか？	<input type="checkbox"/>
4	23	フレーム用躯体寄せ部材端部キャップにシーリング処理をしていますか？	<input type="checkbox"/>

No.	ページ	チェック内容	
5	24	柱用躯体寄せカバーの嵌合はしっかりされていますか？	<input type="checkbox"/>
6	25	水切り下の隙間塞ぎ材にシーリング処理をしていますか？（隙間塞ぎ材を取付けいる場合）	<input type="checkbox"/>
7	25	柱用躯体寄せ部材の下端部（内側のみ）にシーリング処理をしていますか？	<input type="checkbox"/>

梱包明細表

【1】柱用躯体寄せ部材セット		
名称	略 図	員 数
柱用躯体寄せカバー 短		2
柱用躯体寄せカバー 長		2
柱用躯体寄せ取付部材		2
柱用躯体寄せ部材 短		1
柱用躯体寄せ部材 長		1
柱用躯体寄せ補助部材		1
外壁固定用テープ		8
偏芯プラグ		7
【1a】φ4×13(+ナベ(PAN)ドリルねじD=8.2		14

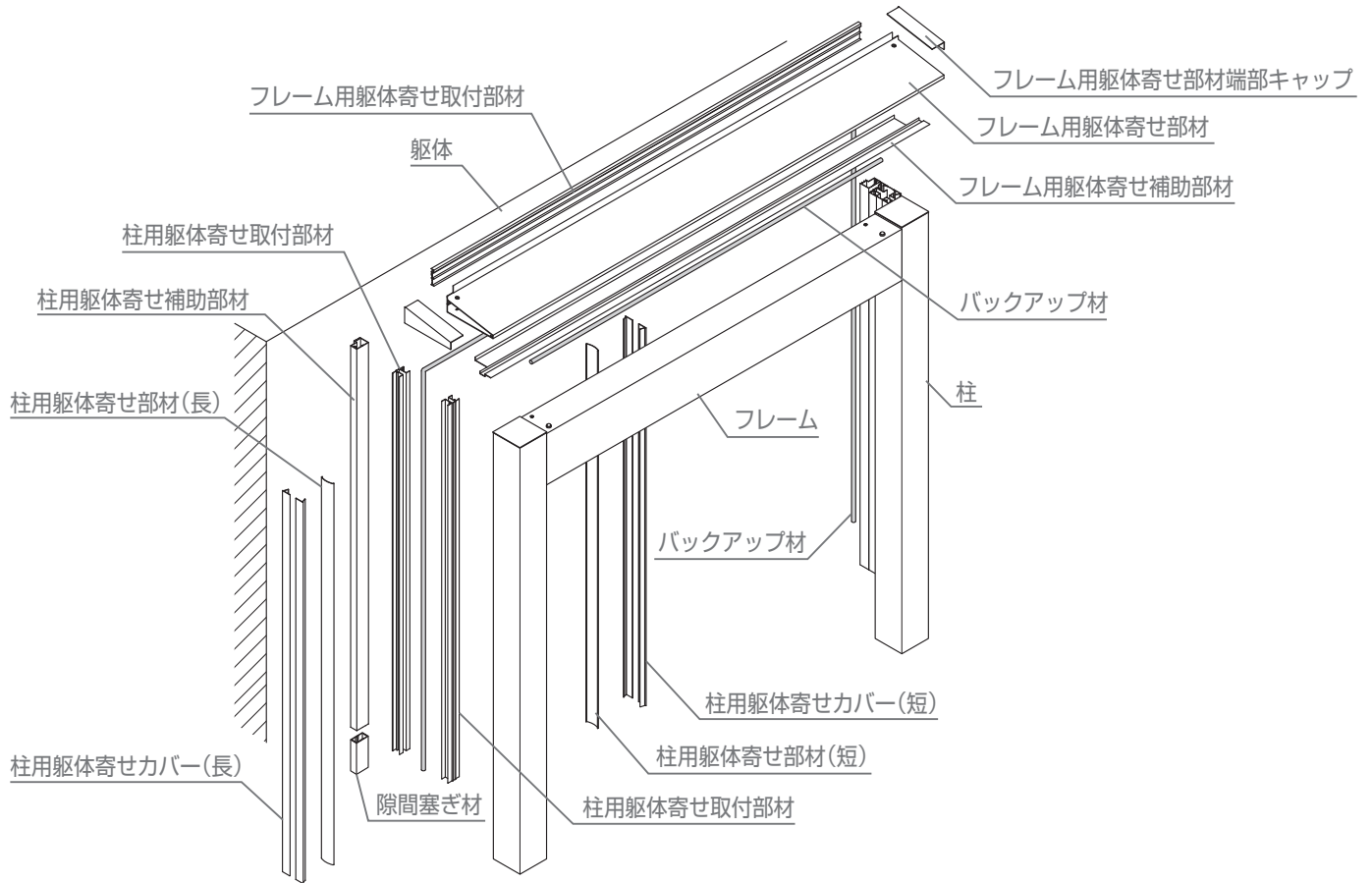
【2】フレーム用躯体寄せ部材セット			
名称	略 図	員 数	
		4スパン/W30	7スパン
フレーム用躯体寄せ部材ASSY		1	1
フレーム用躯体寄せ取付部材		1	1
フレーム用躯体寄せ補助部材		1	1

【2】フレーム用躯体寄せ部材セット（つづき）			
名称	略 図	員 数	
		4スパン/W30	7スパン
バックアップ材		1	1
バックアップ材:フレーム用躯体寄せ補助部材		1	1
外壁固定用テープ		8	14
フレーム用躯体寄せ部材用スペーサー		7	11
フレーム用躯体寄せ部材用端部キャップ(右)		1	1
フレーム用躯体寄せ部材用端部キャップ(左)		1	1
穴隠しシール		4	4
偏芯プラグ		7	12
防水座金		7	11
【2a】φ4×16低頭ドリル3種		7	12
【2b】φ4×16低頭ドリル3種		7	11
【2c】φ4×25ナベタッピン2種D=7G=5		2	2
【2d】φ5×10サラタッピン2種		2	2
躯体寄せ部材取付説明書	—	1	1

【3】隙間ふさぎ材 オプション			
名称	略 図	員 数	
		L2000	L4000
隙間ふさぎ材(角面材20×40)		1	1

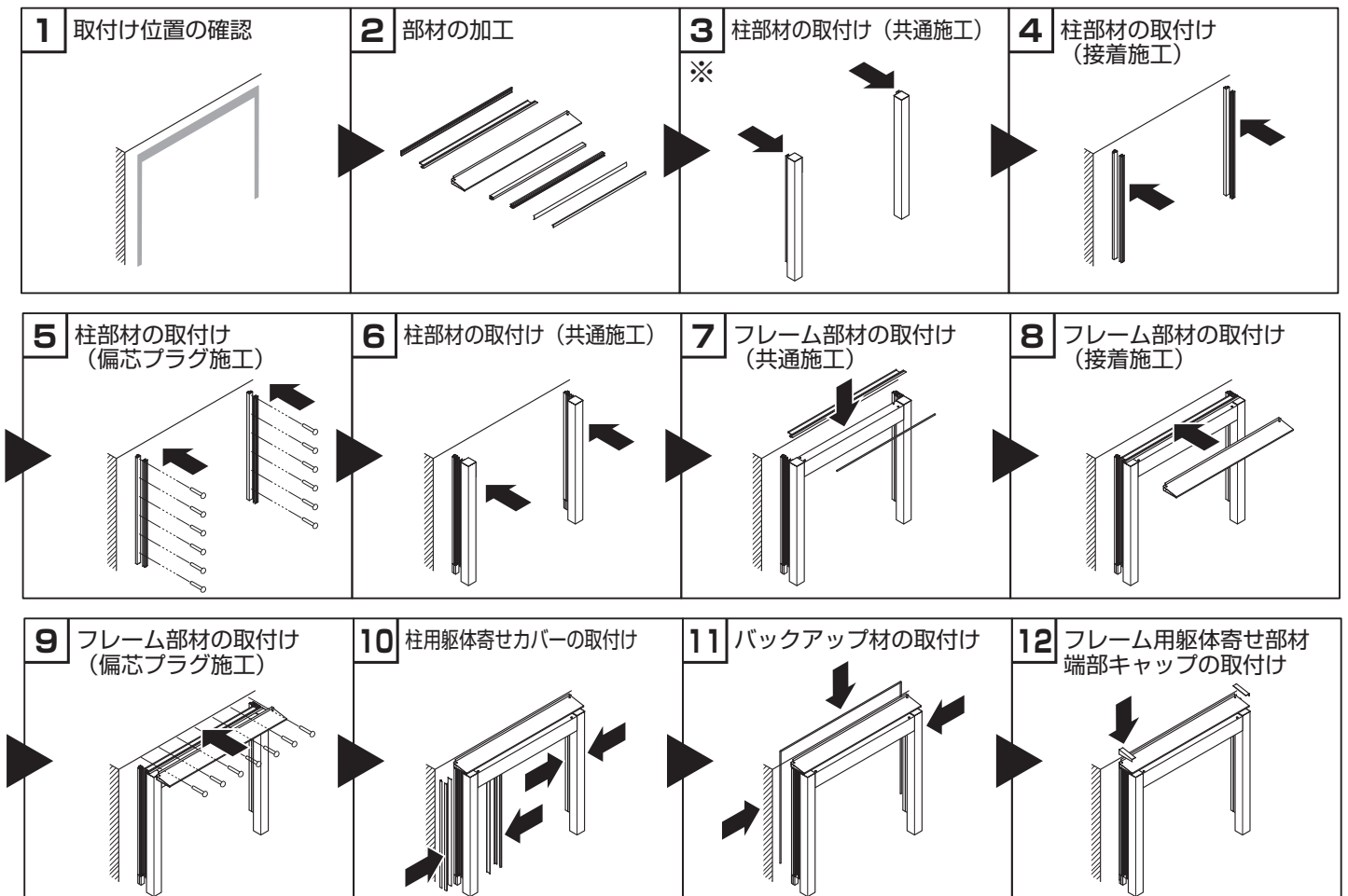
【4】取付ねじ オプション		
名称	略 図	員 数
【4a】φ4×16(+ナベ(PAN)ドリルねじD=8.2		50

各部名称



施工の流れ

※柱(中間用)を使用してフレームを持ち出している場合、「3」の工程で柱にフレームを取付けた状態で部材の取付けをしてください。



1 施工前の重要確認事項

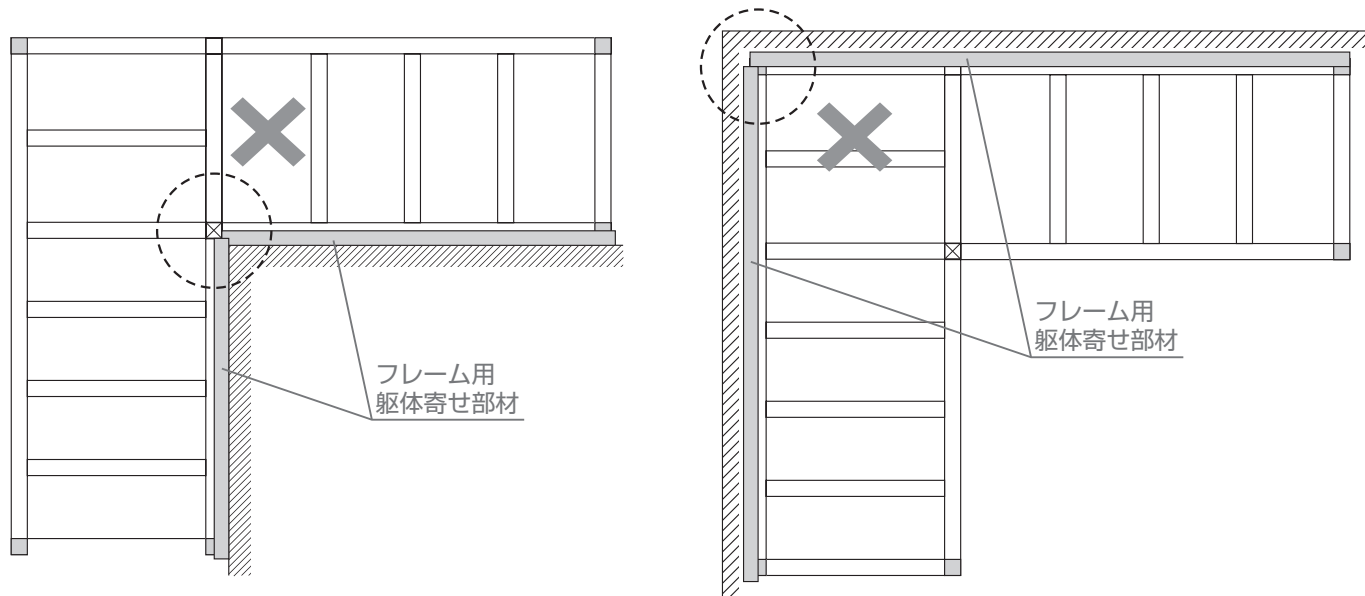
1-1 柱の建込みについて

施工上のお願い

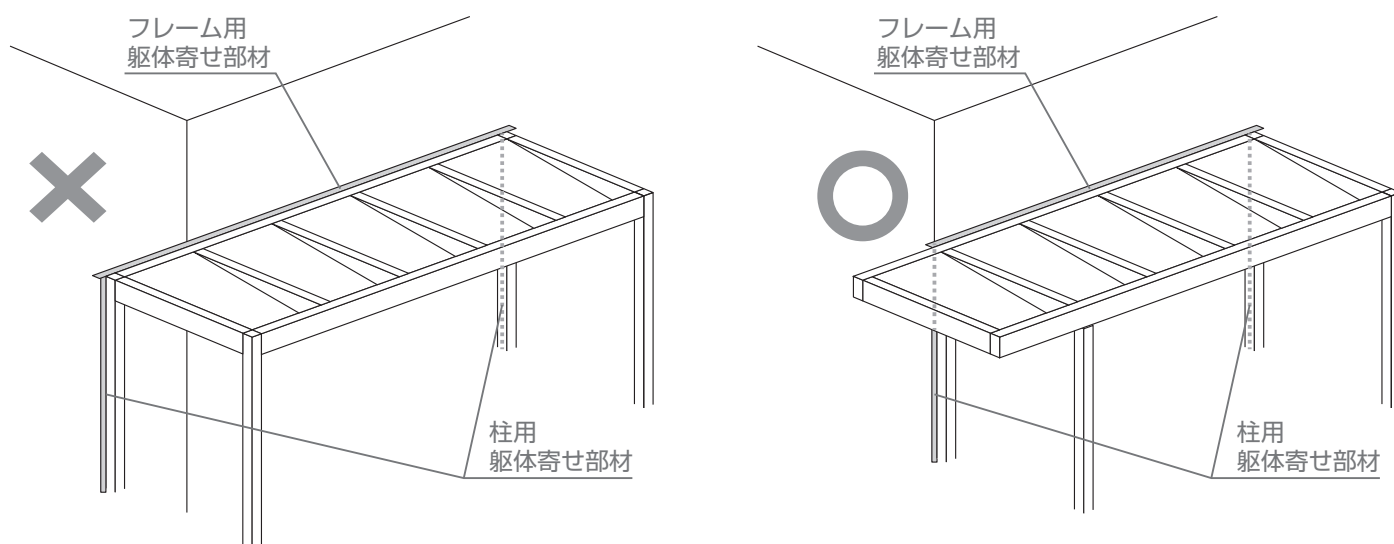
- 柱用躯体寄せ補助部材と柱用躯体寄せ取付部材を先に取付け(P16~P19)してから、柱の建込みを行ってください。

1-2 取付け条件について

1-2-1 | Gルーフ フリータイプがL字接続している場合



1-2-2 | 躯体から屋根が張出す場合

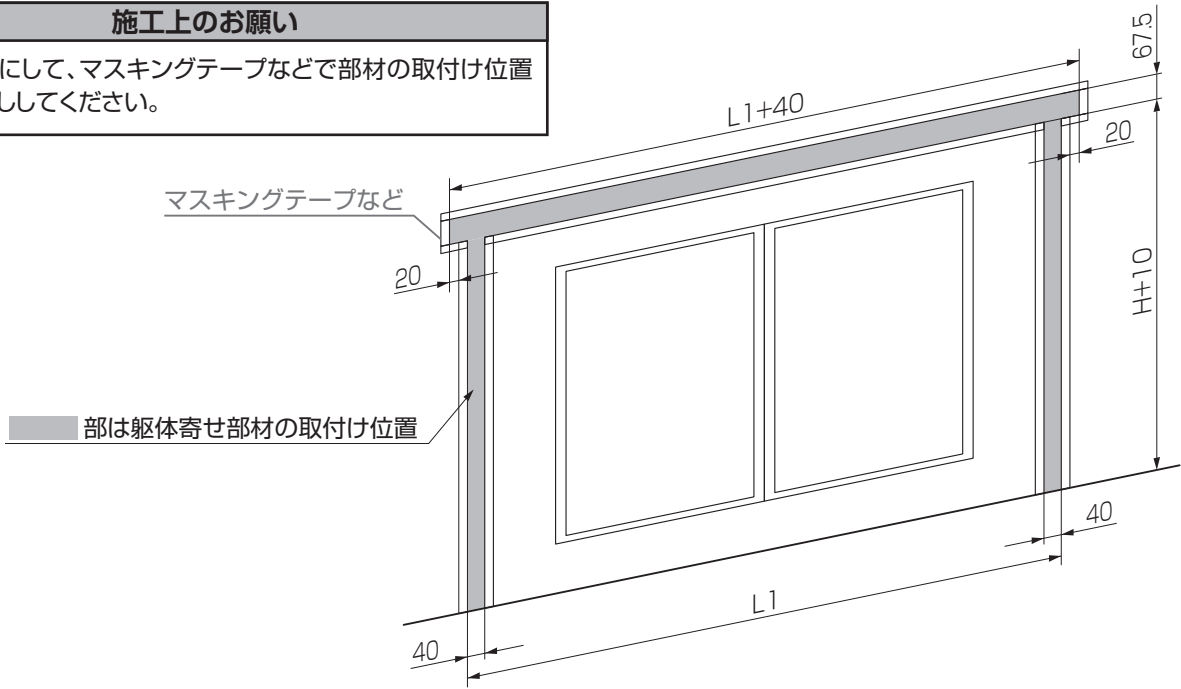


2 基本寸法

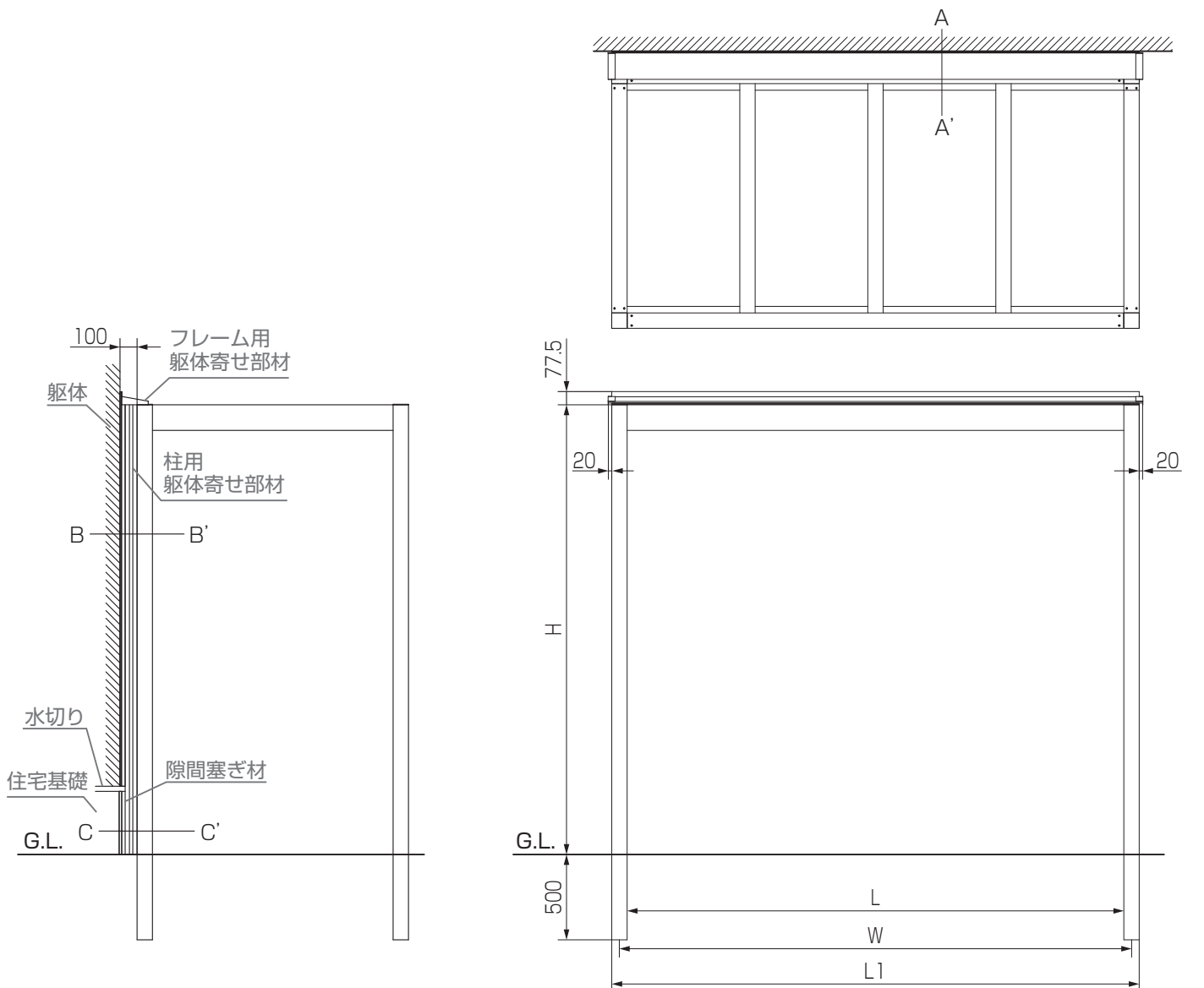
2-1 躯体寄せ部材の取付け位置

施工上のお願い

- 図を参考にして、マスキングテープなどで部材の取付け位置を位置出ししてください。

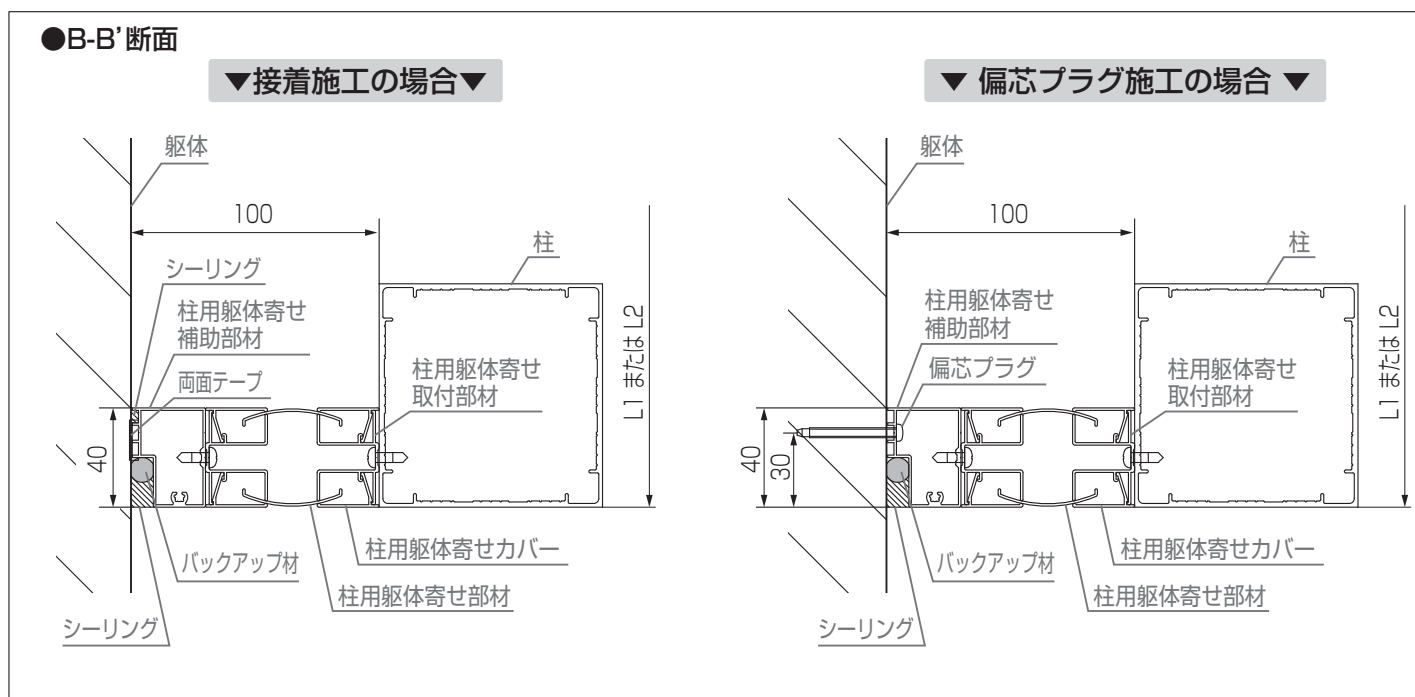
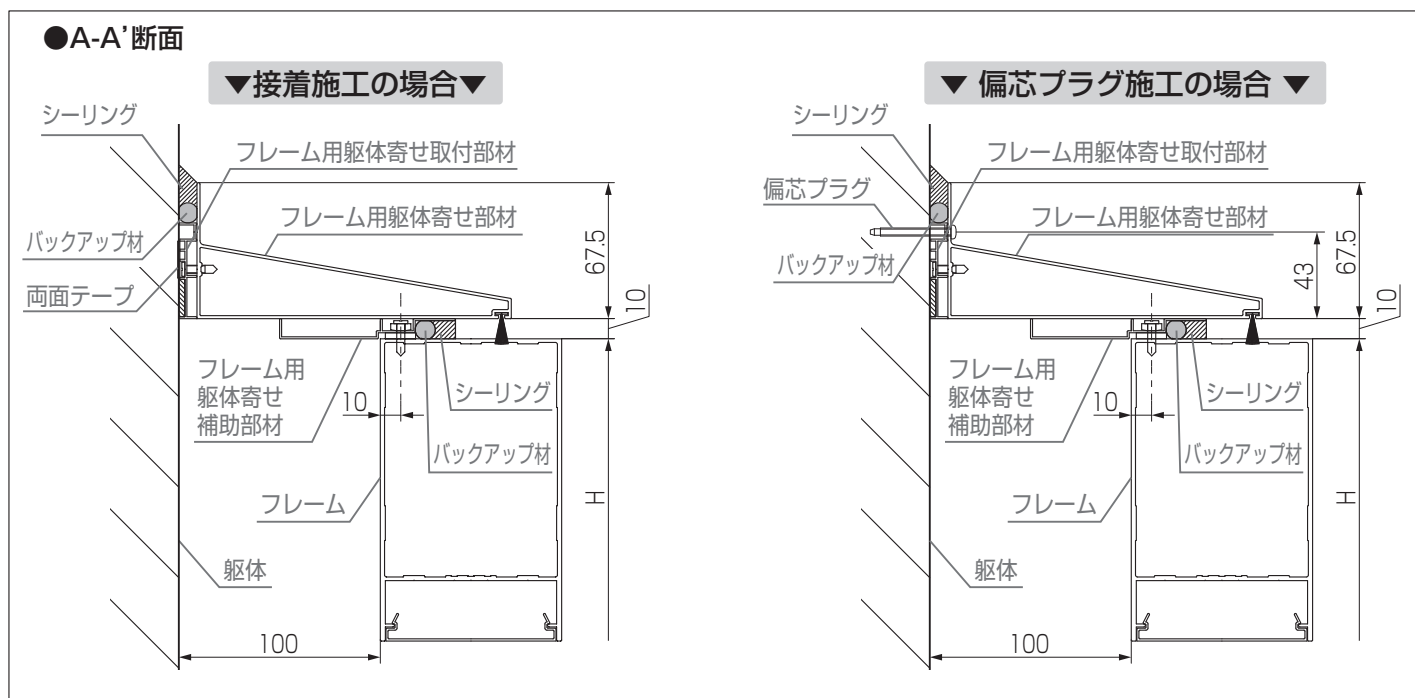


2-2 納まり図 ※図は4スパンです。



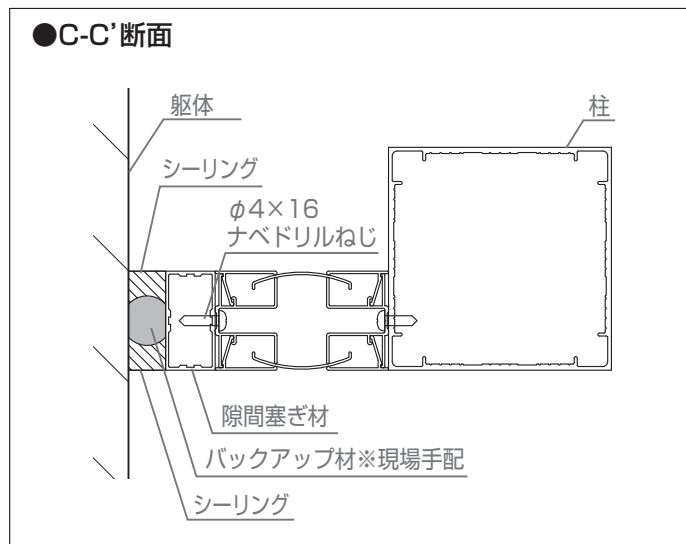
2 基本寸法

2-3 断面図



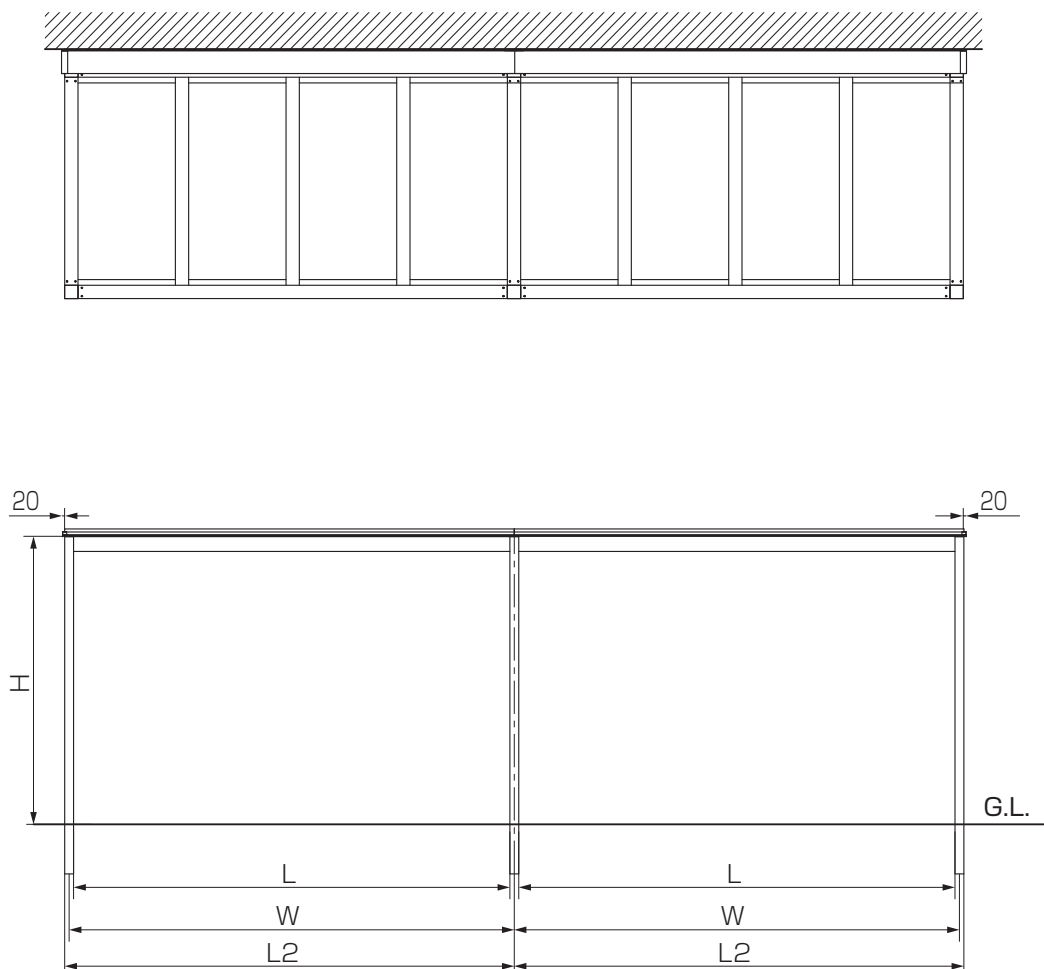
ルーフ サイズ	W (柱芯々)		L (フレーム長さ)	L1 (屋根外々寸法)	
	90×150フレーム	150角フレーム		90×150フレーム	150角フレーム
W10	—※	1060	910	—※	1210
W15	—※	1560	1410	—※	1710
W20	—※	2060	1910	—※	2210
W30	—※	3060	2910	—※	3210
1スパン	750	810	660	840	960
2スパン	1500	1560	1410	1590	1710
3スパン	2250	2310	2160	2340	2460
4スパン	3000	3060	2910	3090	3210
5スパン	3750	3810	3660	3840	3960
6スパン	4500	4560	4410	4590	4710
7スパン	5250	5310	5160	5340	5460

※ 90×150フレームの場合、W側を躯体寄せにすることはできません。



2 基本寸法

2-4 納まり図 (連棟)



ルーフ サイズ	W (柱芯々)		L (フレーム長さ)	L2 (屋根外～柱芯寸法)	
	90×150フレーム	150角フレーム		90×150フレーム	150角フレーム
W10	—※	1060	910	—※	1135
W15	—※	1560	1410	—※	1635
W20	—※	2060	1910	—※	2135
W30	—※	3060	2910	—※	3135
1スパン	750	810	660	795	885
2スパン	1500	1560	1410	1545	1635
3スパン	2250	2310	2160	2295	2385
4スパン	3000	3060	2910	3045	3135
5スパン	3750	3810	3660	3795	3885
6スパン	4500	4560	4410	4545	4635
7スパン	5250	5310	5160	5295	5385

※ 90×150フレームの場合、W側を躯体寄せにすることはできません。

3 部材の加工

3-1 フレーム部材の加工 ※L1=単体用、L2=連棟用の寸法を表します。P9、P10の寸法表を参照して下さい。

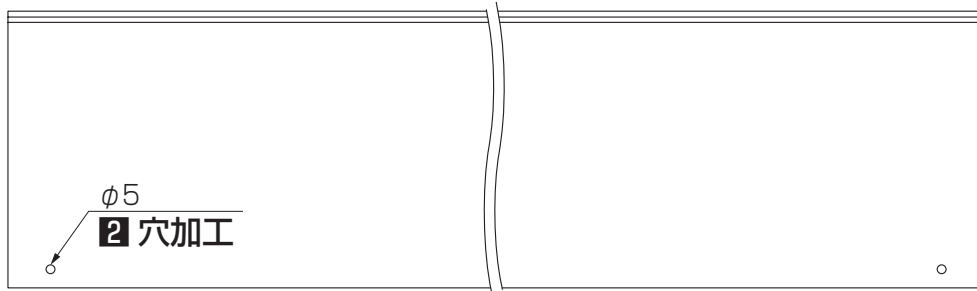
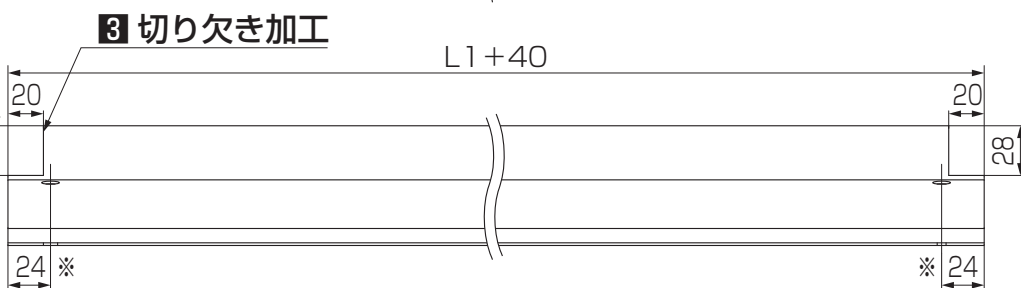
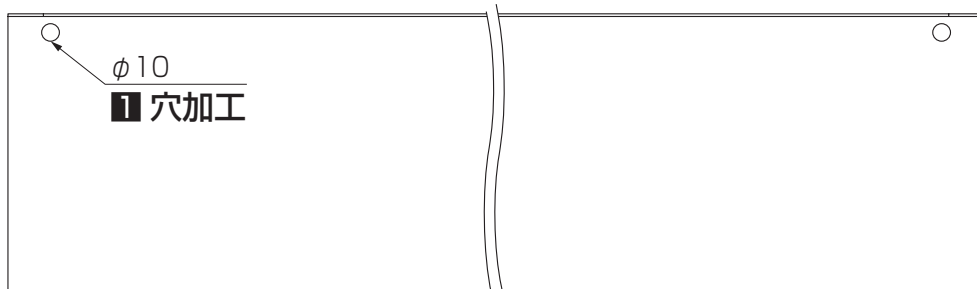
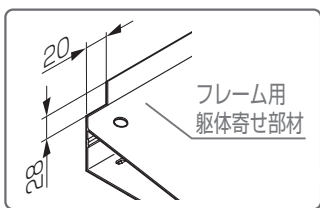
3-1-1 | フレーム用躯体寄せ部材

施工上のお願い

- フレーム用躯体寄せ部材の両端部の穴加工は、最初に片側だけ加工してください。躯体に取付けた柱用躯体寄せ補助部材の穴位置を合わせて、反対側端部の穴加工を行ってください。
- L寸法を切り詰め加工する場合は片側のみ切断して下さい。切断した側に切断前と同じになるよう切り欠き加工して下さい。
- 柱が端部ではない場合、※部の寸法に柱移動距離を加算してください。

▼ 単体の場合 ▼

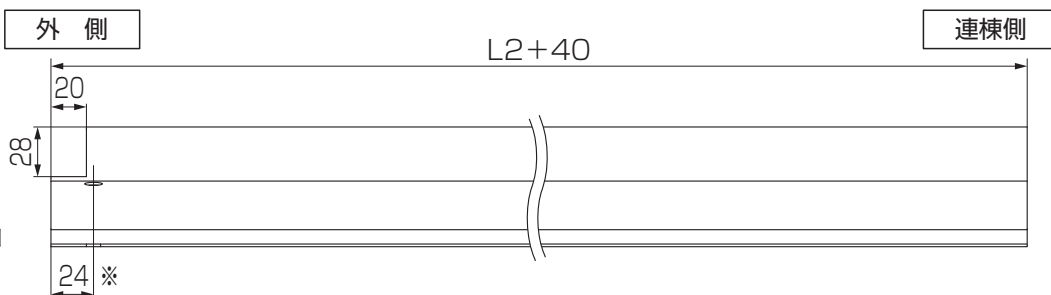
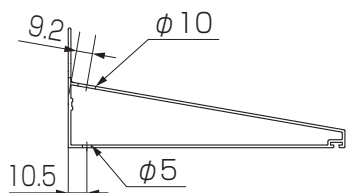
- 1: 上部にφ10の穴加工
 - 2: 下部にφ5の穴加工
 - 3: 端部に切り欠き加工
- ※切詰め加工する場合



施工上のお願い

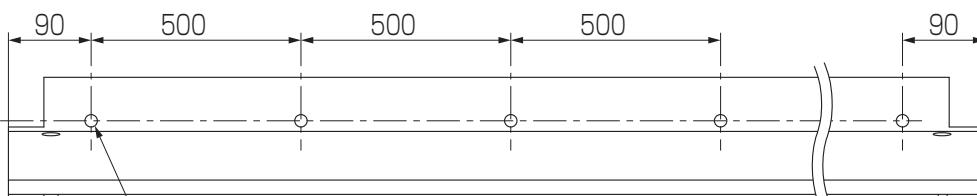
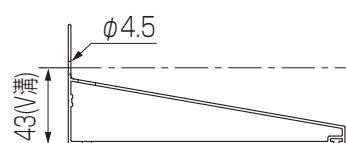
- L寸法の切り詰めは連棟側を切断して下さい。2本目のフレーム用躯体寄せ部材は左右対称の加工になります。
- 柱が端部ではない場合、※部の寸法に柱移動距離を加算してください。

▼ 連棟の場合 ▼



▼ 偏芯プラグ施工の場合 ▼

- 1: 図のピッチでφ4.5穴加工



1 穴加工

3 部材の加工

3-1 フレーム部材の加工 ※L1=単体用、L2=連棟用の寸法を表します。P9、P10の寸法表を参照して下さい。

3-1-2 フレーム用躯体寄せ補助部材

施工上のお願い

●L寸法を切り詰め加工する場合は片側のみ切断して下さい。切断した側に切断前と同じになるよう切り欠き加工および端部から200mmの位置に $\phi 4.5$ の穴加工して下さい。

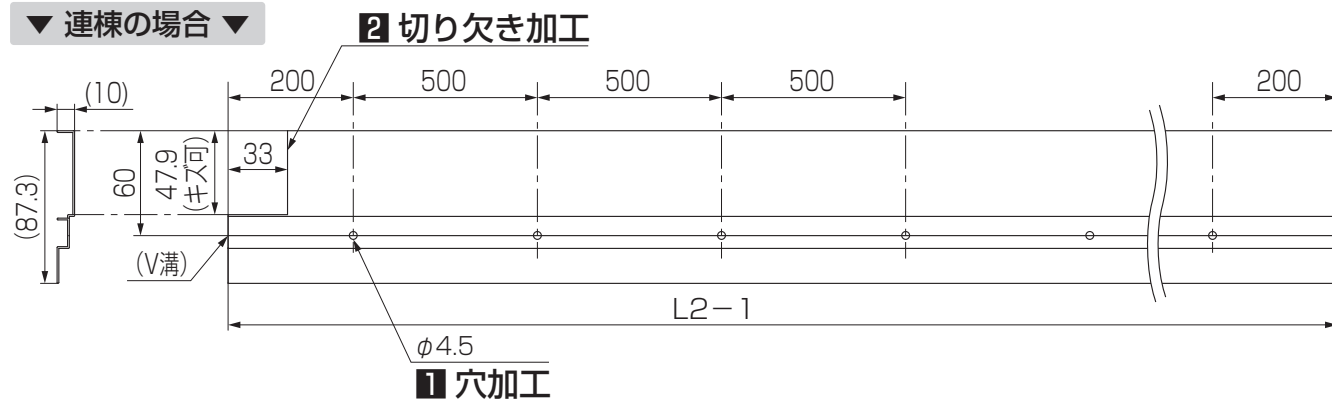
▼ 単体の場合 ▼

1: $\phi 4.5$ 穴加工※切詰め加工する場合

2: 端部に切り欠き加工※切詰め加工する場合



▼ 連棟の場合 ▼

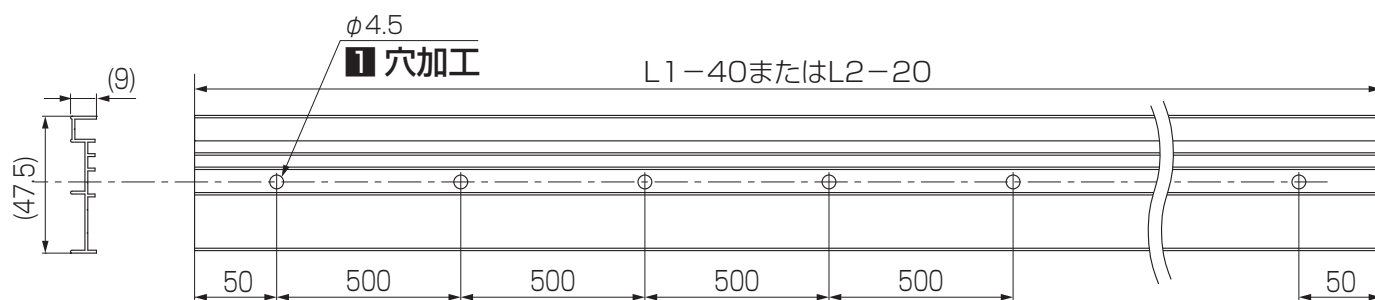


3-1-3 フレーム用躯体寄せ取付部材

施工上のお願い

●L寸法を切り詰め加工する場合は片側のみ切断して下さい。切断した側に切断前と同じになるよう端部から50mmの位置に $\phi 4.5$ 穴加工して下さい。

1: $\phi 4.5$ 穴加工※切詰め加工する場合



3 部材の加工

3-2 柱部材の加工

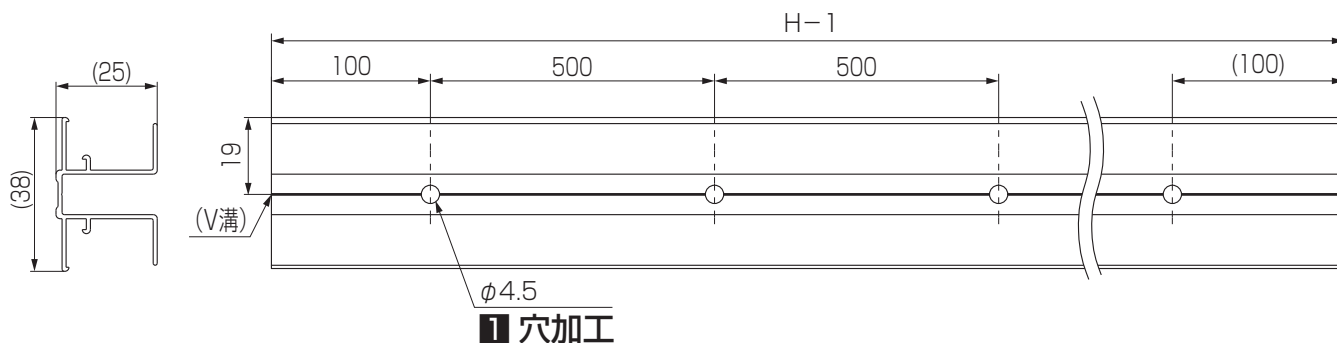
3-2-1 柱用躯体寄せ取付部材

施工上のお願い

●H寸法を切り詰め加工する場合は片側のみ切断して下さい。切断した側に切断前と同じになるよう端部から100mmの位置にφ4.5穴加工して下さい。

❶: φ4.5穴加工

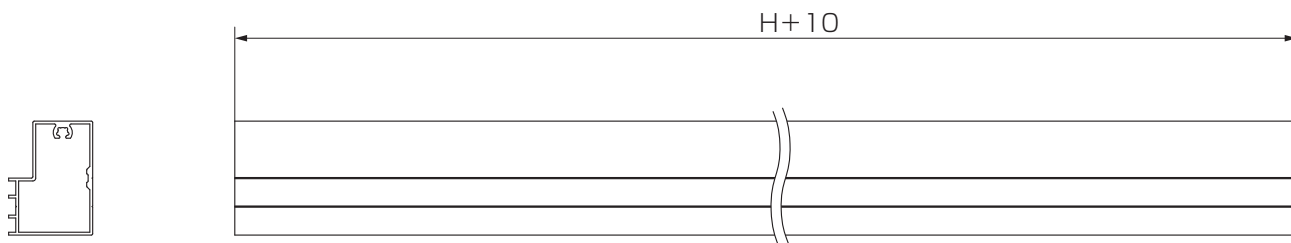
※切詰め加工する場合



3-2-2 柱用躯体寄せ補助部材

※水切りがある場合はP15を参照して部材を切断して下さい。

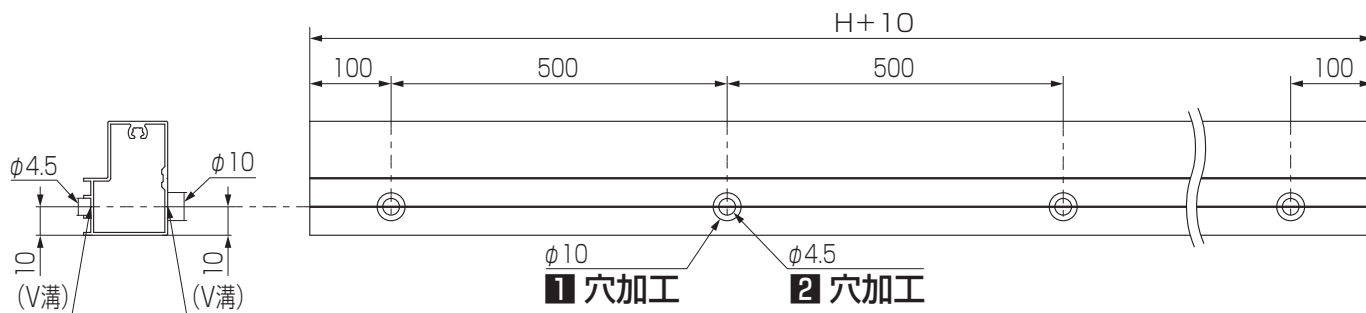
▼ 接着施工の場合 ▼



▼ 偏芯プラグ施工の場合 ▼

❶: ルーフ側に図のピッチでφ10の穴加工

❷: 躯体側に図のピッチでφ4.5の穴加工



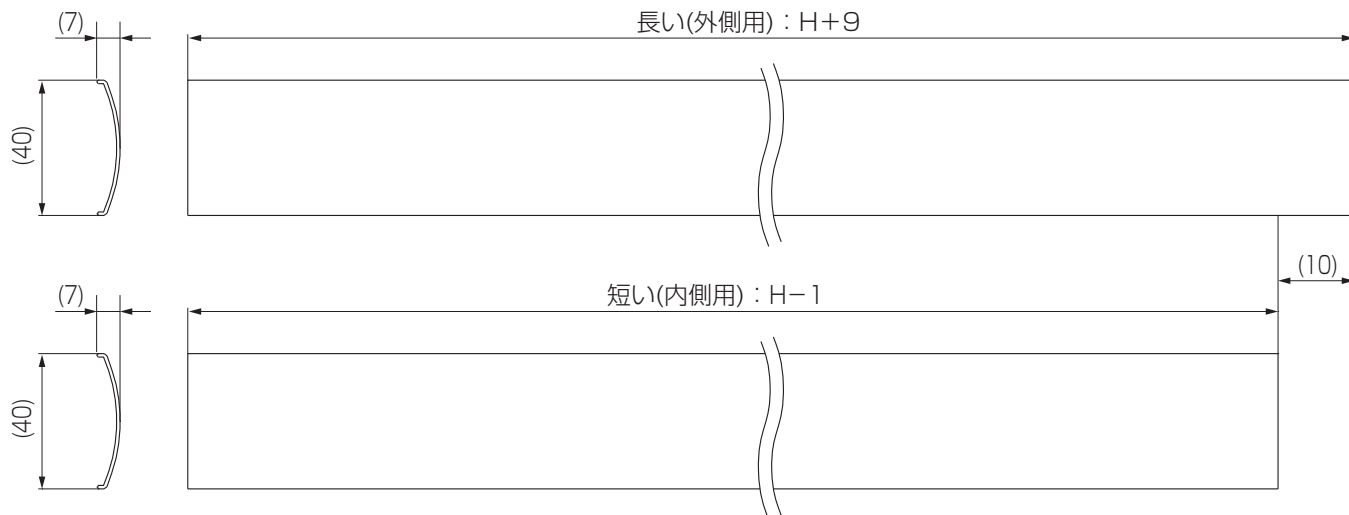
3 部材の加工

3-2 柱部材の加工

3-2-3 柱用躯体寄せ部材

施工上のお願い

●柱用部品セット1梱包に同梱されている柱用躯体寄せ部材は2本です。長い(外側用)、短い(内側用)が各1本になります。



3-2-4 柱用躯体寄せカバー

施工上のお願い

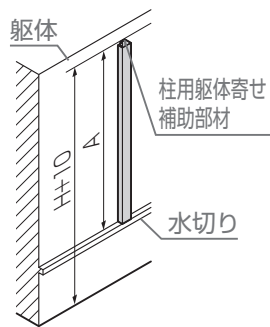
●柱用部品セット1梱包に同梱されている柱用躯体寄せカバーは4本です。長い(外側用)、短い(内側用)が各2本になります。



3 部材の加工

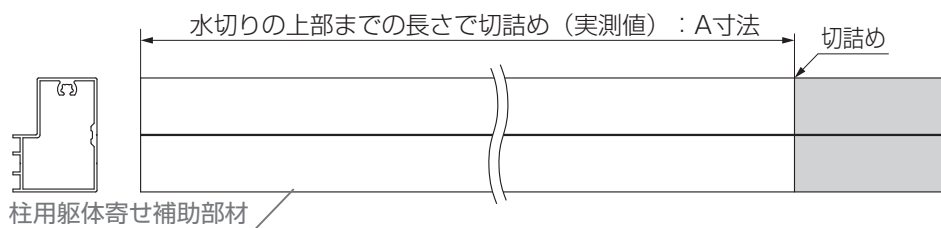
3-3 水切りがある場合の加工

3-3-1 柱用躯体寄せ補助部材の加工



施工上のお願い

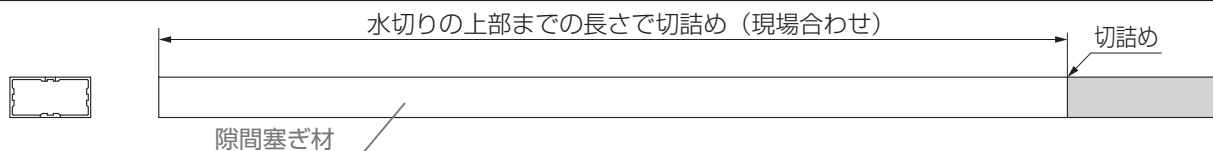
- 水切り上部からH+10のA寸法を実測し、切り詰めてください。



3-3-2 隙間塞ぎ材の加工

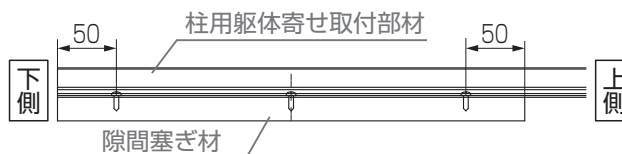
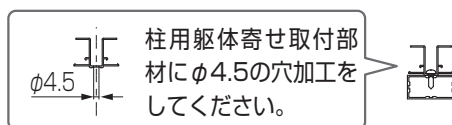
施工上のお願い

- 水切りから下部分までの現場状況に応じて、隙間塞ぎ材を水切りの上部で切詰めてください。



▼ 隙間塞ぎ材を1本使用する場合 ▼

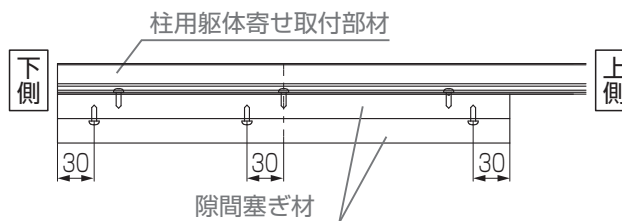
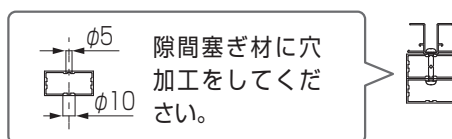
上下50mmの位置と中間にねじ固定してください。



▼ 隙間塞ぎ材を2本使用する場合 ▼

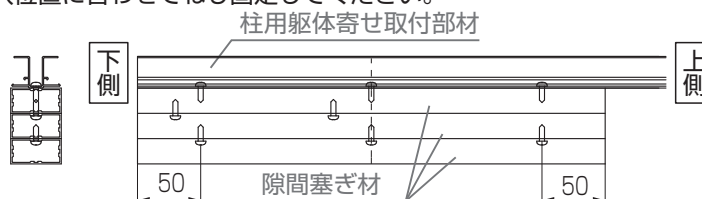
上下30mmの位置と中間から30mmずらしてねじ固定してください。

※1本目とは逆側からねじで固定します。



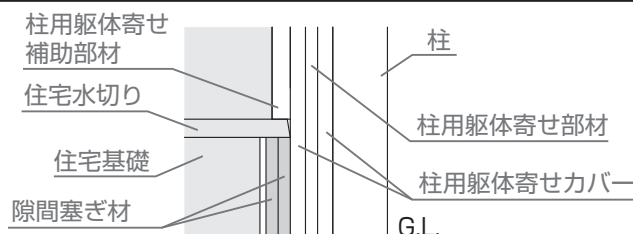
▼ 隙間塞ぎ材が3本必要な場合 ▼

1本目を取付けるための柱用躯体寄せ取付部材の穴位置に合わせてねじ固定してください。



施工上のお願い

- 切断した隙間塞ぎ材は取付部材に【4a】で取付けてください。
- 水切りから下部分、または取付材から基礎までのすき間が広い場合は、隙間塞ぎ材を重ねて取付けてください。



4 本体の施工

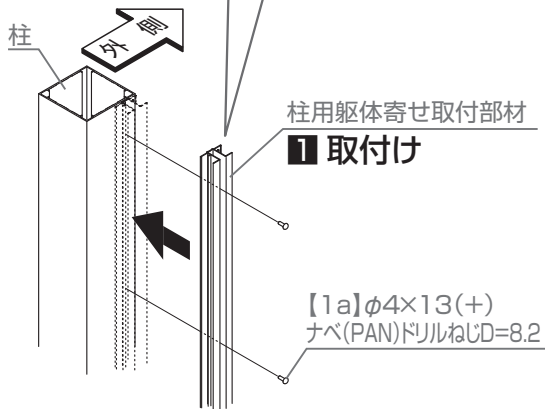
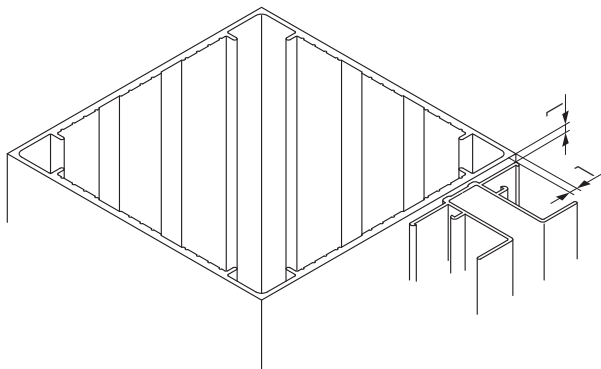
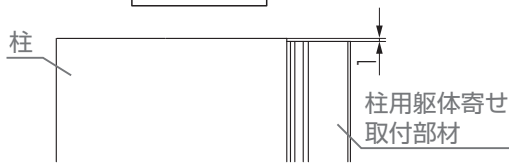
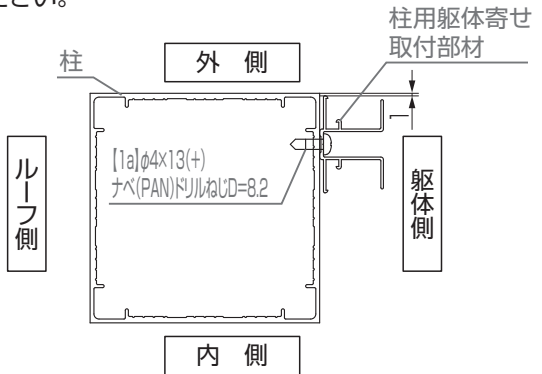
※以降は水切りが付いている場合の図で説明します。

4-1 柱部材の取付け (接着施工・偏心プラグ施工共通) ※柱部材の取付け後、柱・フレームの建て込みをしてください。

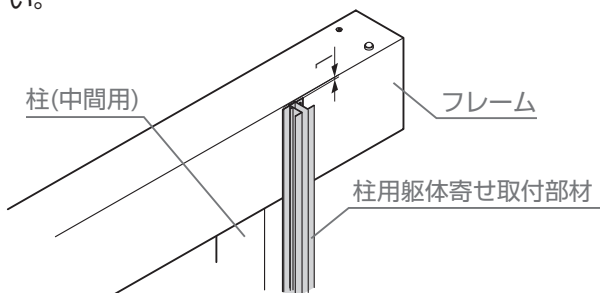
4-1-1 柱用躯体寄せ取付部材の取付け

①: 柱用躯体寄せ取付部材を柱に【1a】で取付け

●柱用躯体寄せ取付部材は、柱端部より1mm内側に取付けてください。

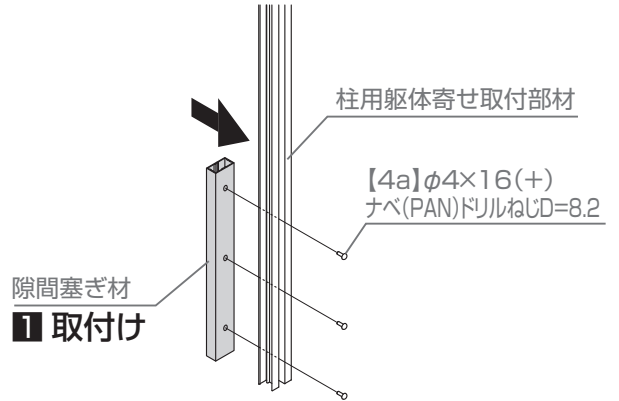


●柱(中間用)を使用してフレームを持ちだしている場合はフレームの上端から1mm下げた位置に取付けてください。



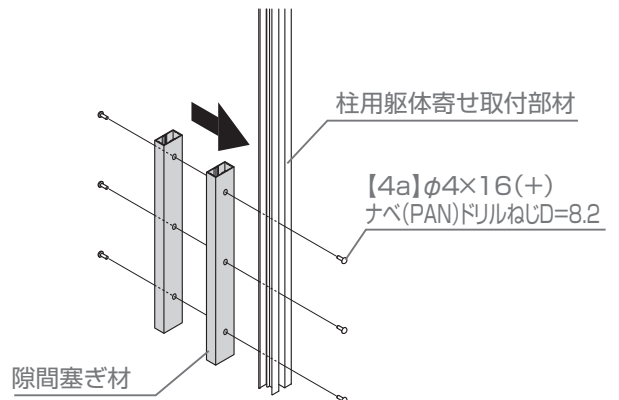
4-1-2 隙間塞ぎ材の取付け

①: 隙間塞ぎ材を柱用躯体寄せ取付部材に【1a】で取付け



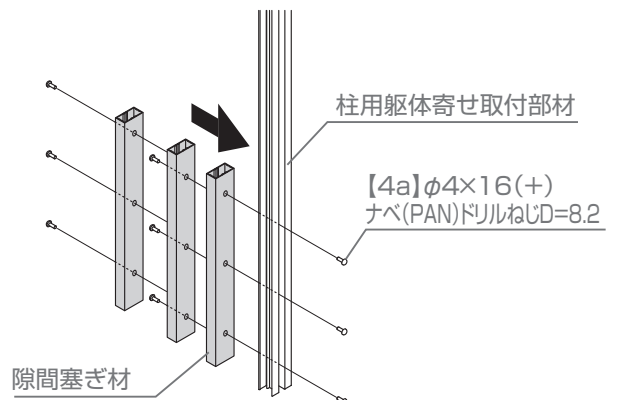
① 取付け

▼ 2本使用する場合 ▼



① 取付け

▼ 3本使用する場合 ▼



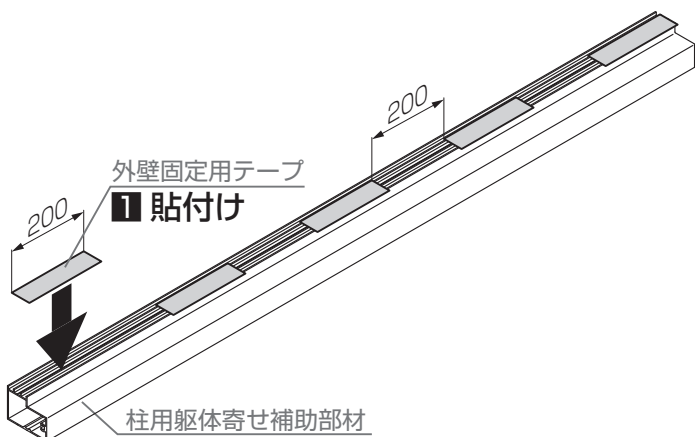
① 取付け

4 本体の施工

4-2 柱部材の取付け (接着施工の場合)

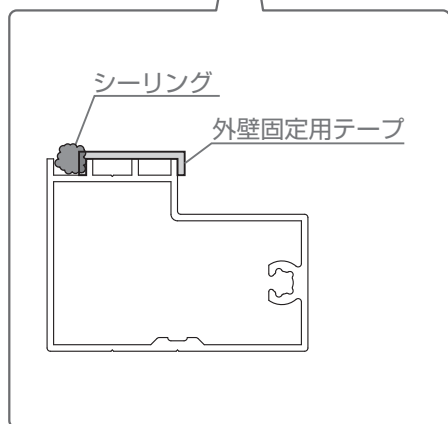
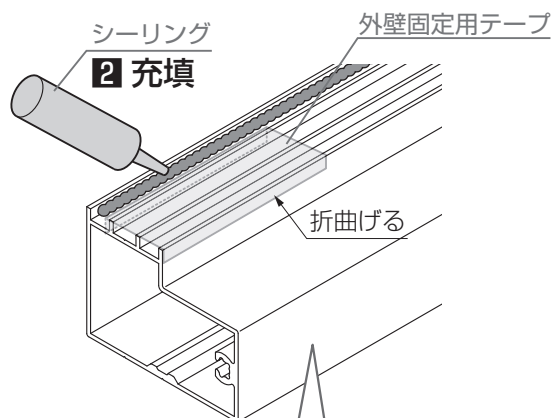
※柱部材の取付け後、柱・フレームの建て込みをしてください。

- 1: 柱用躯体寄せ補助部材に外壁固定用テープを貼付け
- 2: 柱用躯体寄せ補助部材の溝にシーリングを充填

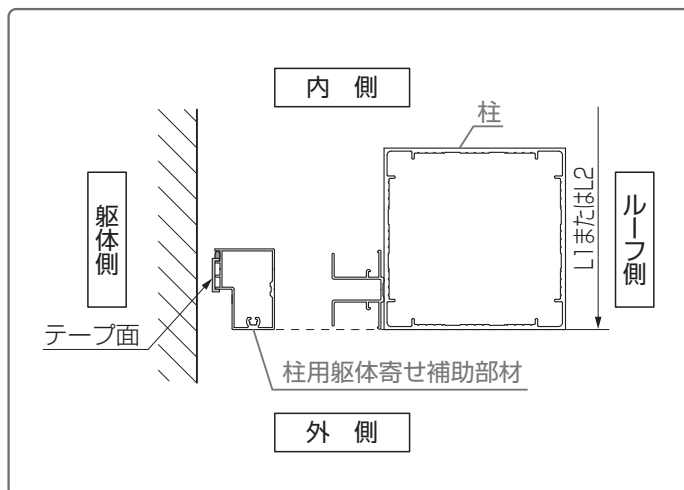


施工上のお願い

- 外壁固定用テープは、図の位置に折曲げて貼付けてください。
- 外壁固定用テープを貼り終えた後に、外側の溝にシーリング材を充填してください。

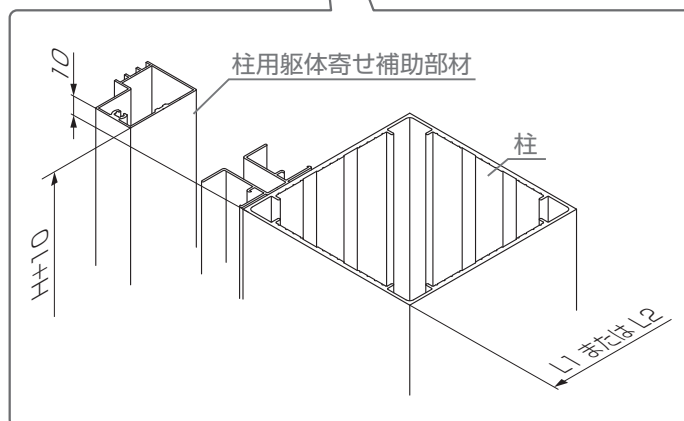
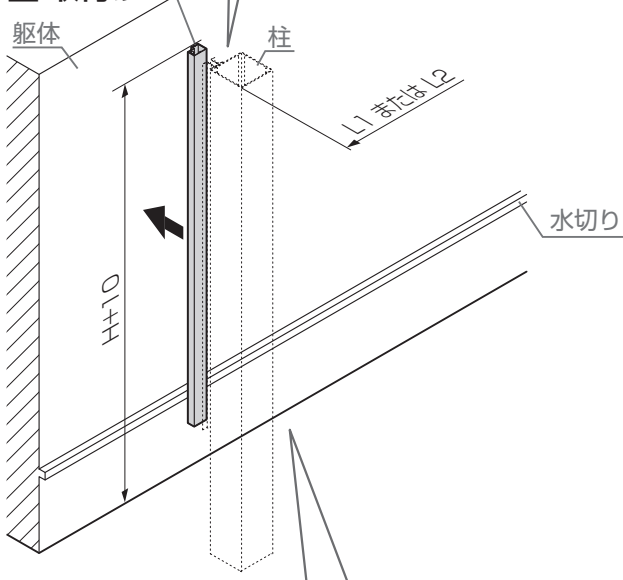


- 3: 躯体に柱用躯体寄せ補助部材のテープ面を向けて取付け



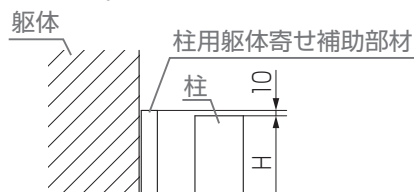
柱用躯体寄せ補助部材

3 取付け



補足

- 柱の天面(キャップ含めず)より10mm上がった位置となります。

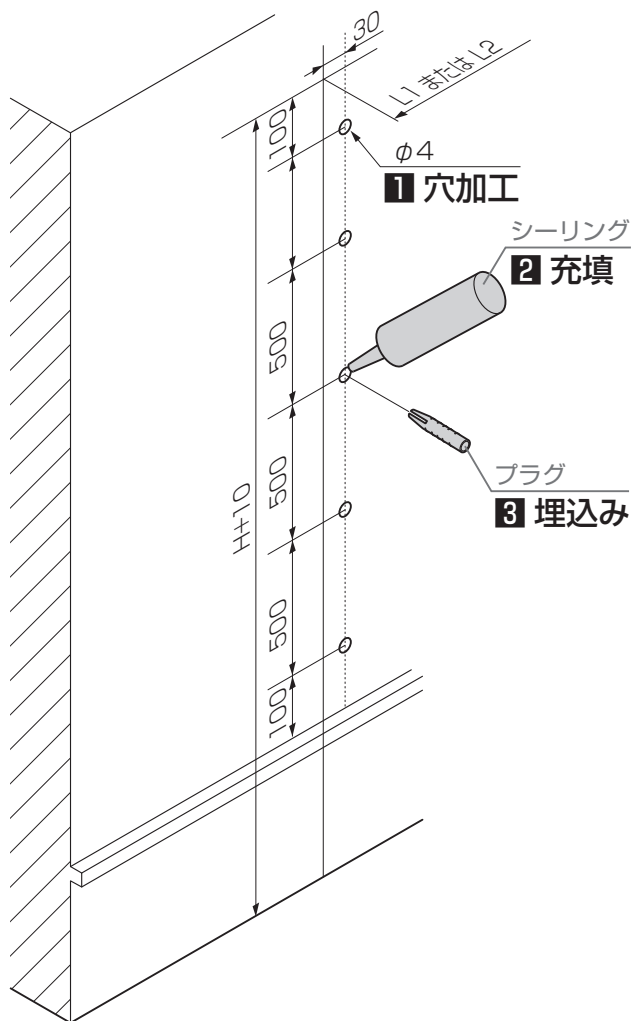


4 本体の施工

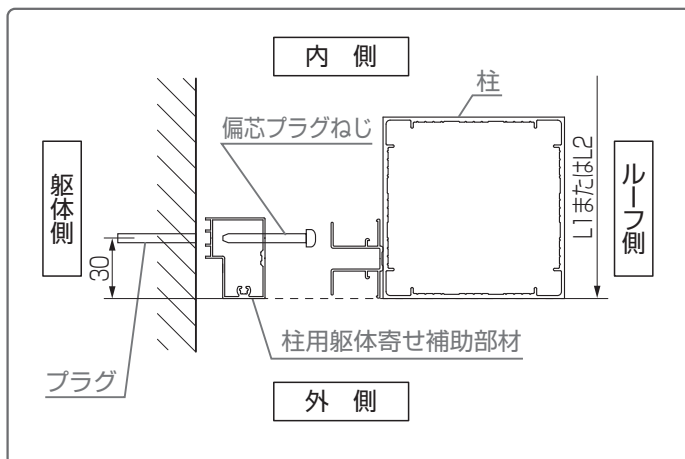
4-3 柱部材の取付け (偏心プラグ施工の場合)

※柱部材の取付け後、柱・フレームの建て込みをしてください。

- 1: 取付ける躯体側にφ4穴加工
- 2: 躯体の下穴にシーリングを充填
- 3: 躯体の下穴に偏心プラグのプラグを埋込み

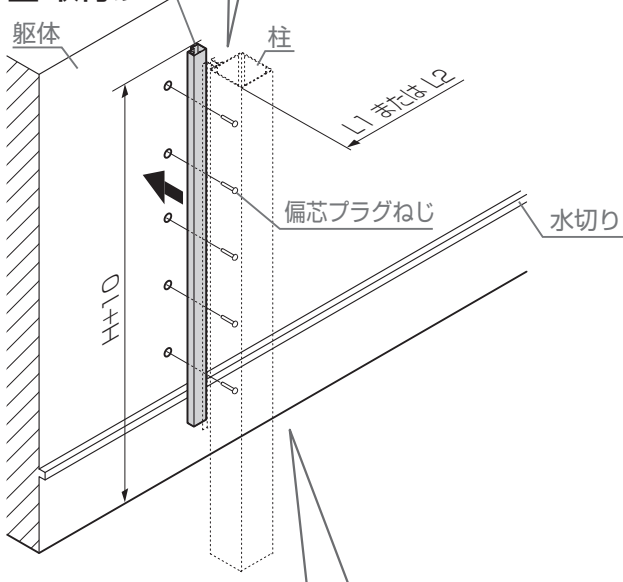


- 3: 柱用躯体寄せ補助部材を躯体のプラグに偏心プラグねじで取付け



柱用躯体寄せ補助部材

4 取付け

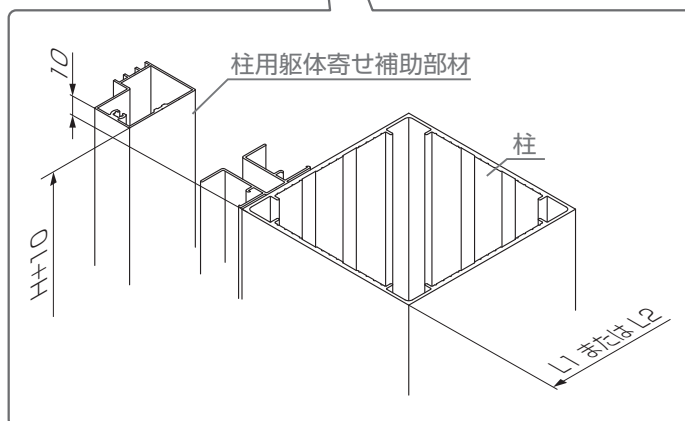
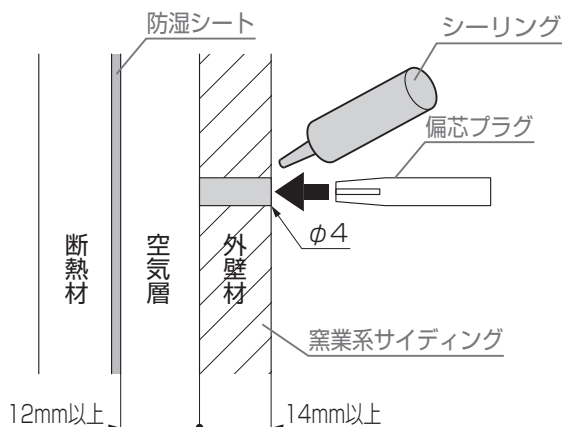


補足

- P13を参照して、柱用躯体寄せ補助部材に下穴を加工してください。
- 柱用躯体寄せ補助部材の穴位置に合わせて躯体に穴加工をしてください。

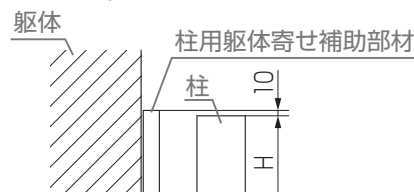
施工上のお願い

- 躯体に下穴φ4をあける際は、防湿シートを突き破らないようにしてください。



補足

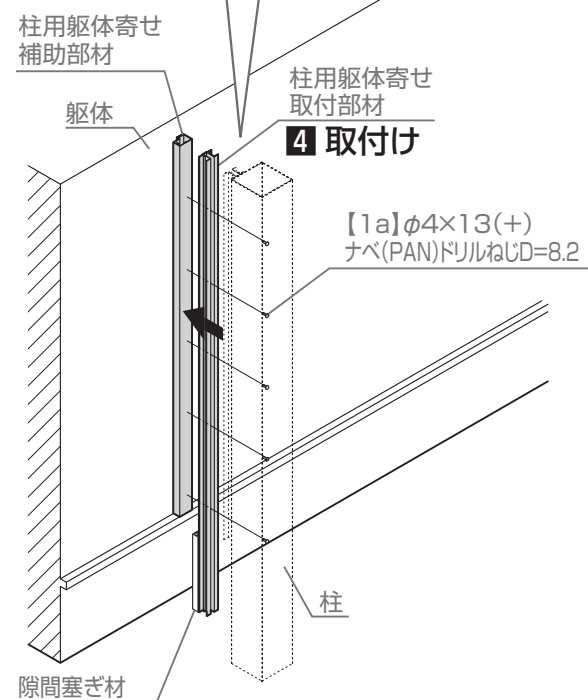
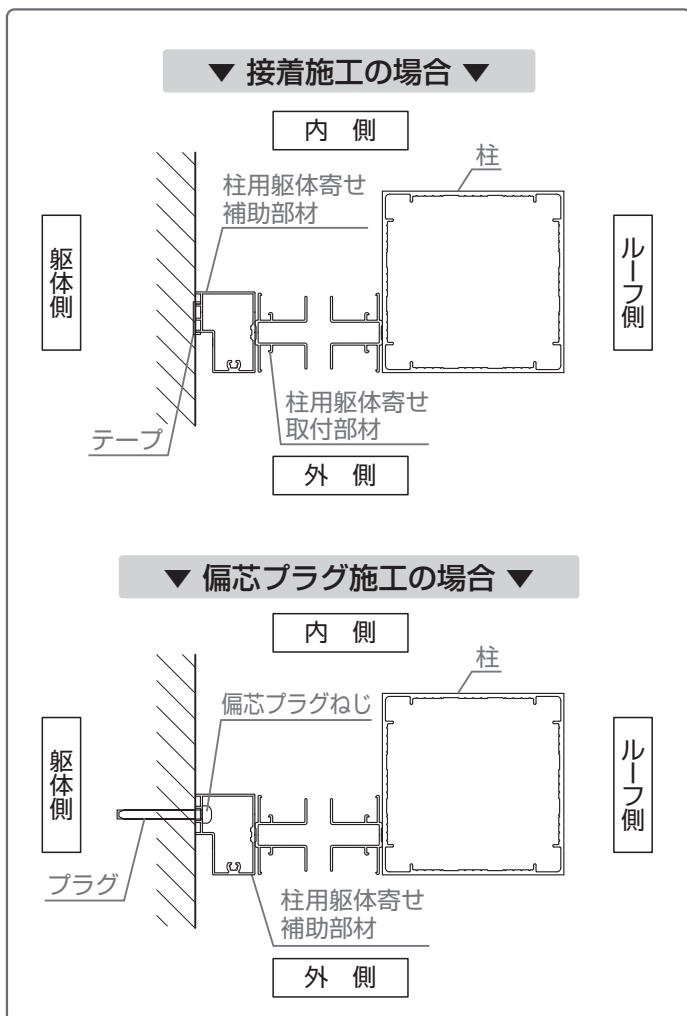
- 柱の天面(キャップ含めず)より10mm上がった位置となります。



4 本体の施工

4-4 柱部材の取付け (接着施工・偏心プラグ施工共通) ※柱部材の取付け後、柱・フレームの建て込みをしてください。

4: 柱用躯体寄せ取付部材を柱用躯体寄せ補助部材に【1a】で取付け

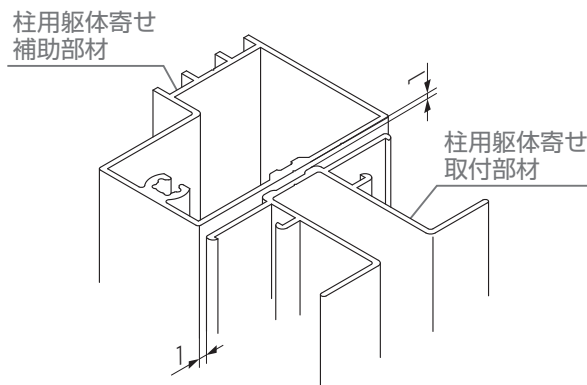


補足

- 柱用躯体寄せ取付部材を取付けた後に柱・フレームの建て込みをしてください。

施工上のお願い

- 柱用躯体寄せ取付部材は、柱用躯体寄せ補助部材の上端から1mm下げて取付けください。

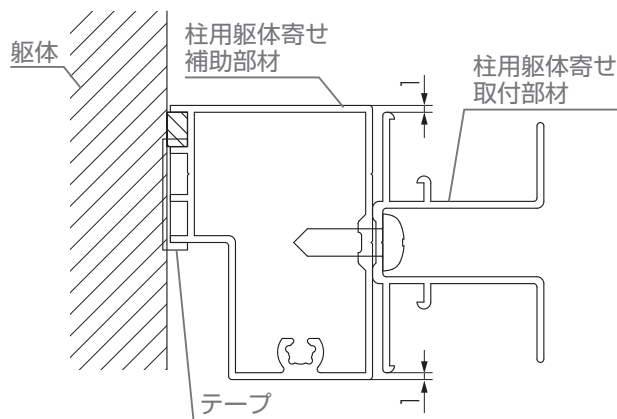


●側面図

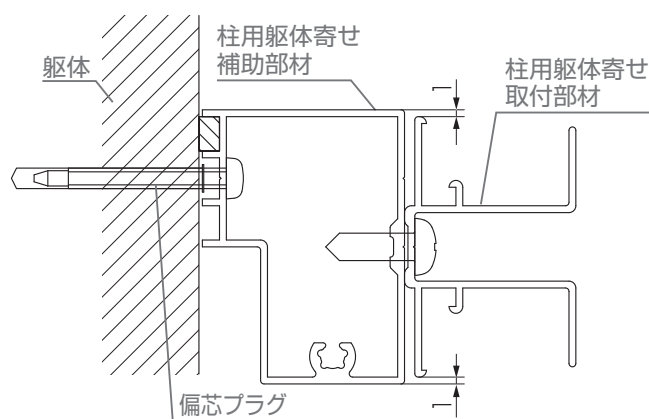


●上面図

▼ 接着施工の場合 ▼



▼ 偏心プラグ施工の場合 ▼

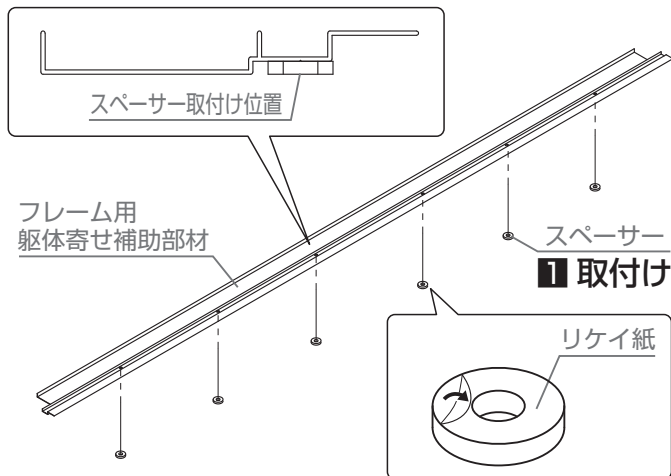


4 本体の施工

4-5 フレーム部材の取付け (接着施工・偏心プラグ施工共通)

4-5-1 | フレーム用躯体寄せ補助部材の加工

①: スペースのリケイ紙をはがし、フレーム用躯体寄せ補助部材に取付け

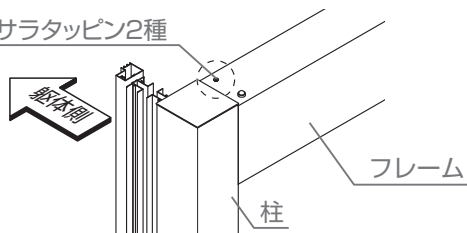


4-5-2 | フレーム用躯体寄せ補助部材の取付け

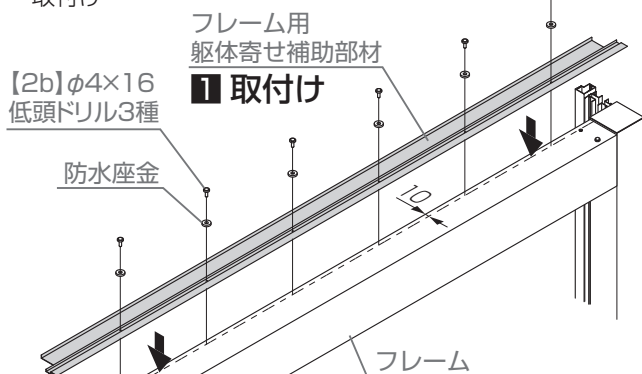
施工上のお願い

●90フレームおよび150フレームとも、部材の干渉を避けるために躯体側のねじは【2d】を使用してください。

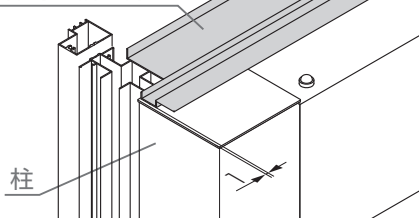
【2d】φ5×10サラタッピン2種



①: フレーム用躯体寄せ補助部材をフレームに防水座金と【2b】で取付け



●フレーム用躯体寄せ補助部材の端部が柱面より1mm内側に取付きます。フレーム用躯体寄せ補助部材

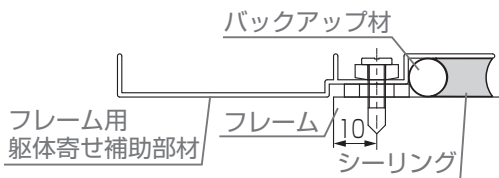


②: バックアップ材をフレーム用躯体寄せ補助部材のすき間に挿入
③: フレーム用躯体寄せ補助部材にシーリングを充填

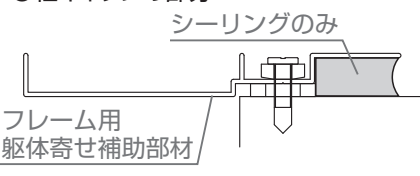
施工上のお願い

●柱キャップの部分にはバックアップ材は入れないでください。(シーリングのみ行ってください。)

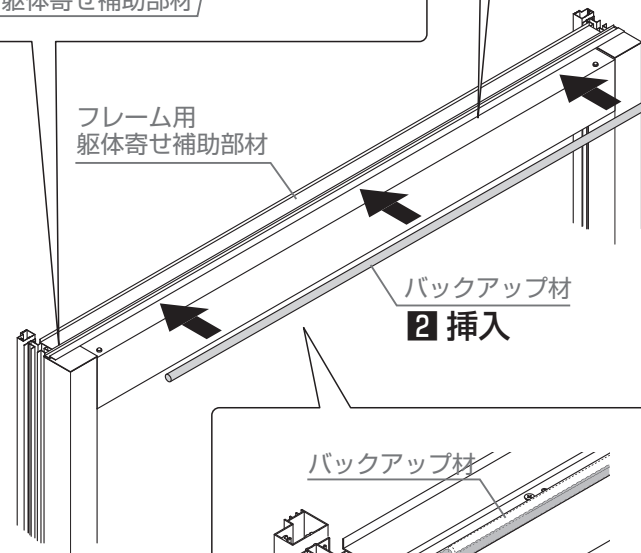
●フレームの部分



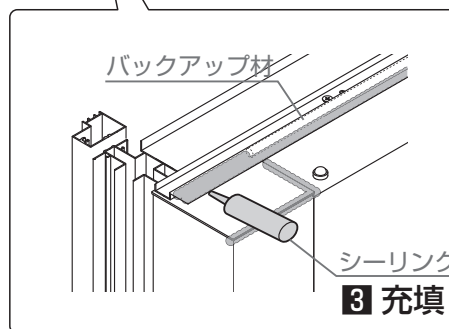
●柱キャップの部分



フレーム用躯体寄せ補助部材



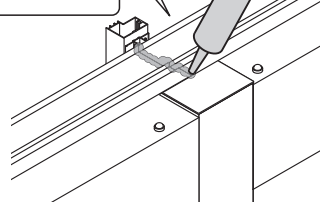
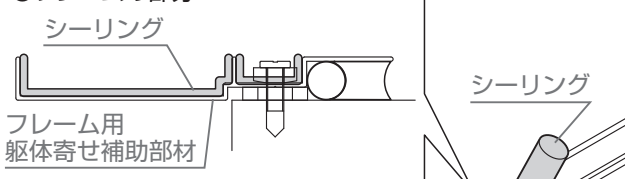
バックアップ材



施工上のお願い

●連棟の場合は、連棟部にシーリングしてください。

●フレームの部分

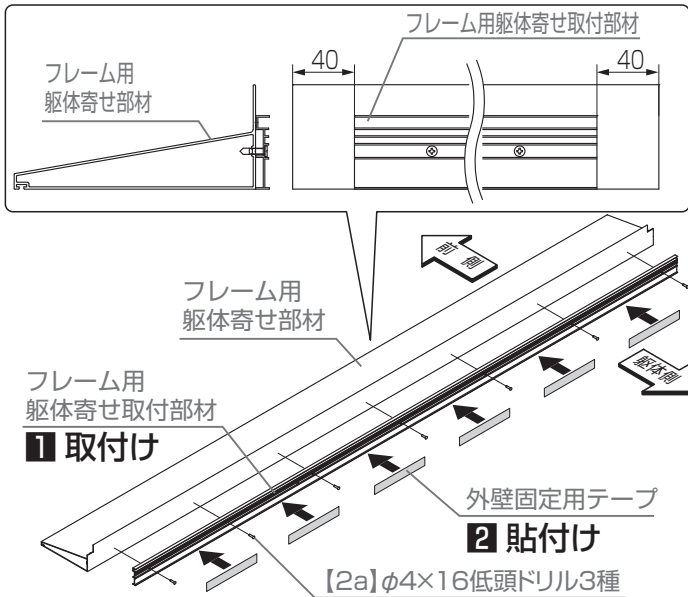


4 本体の施工

4-6 フレーム部材の取付け (接着施工の場合)

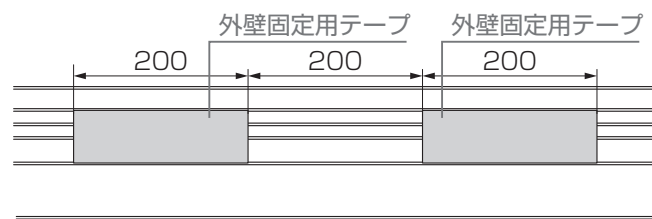
4-6-1 | フレーム用躯体寄せ部材の加工

- 1: フレーム用躯体寄せ取付部材をフレーム用躯体寄せ部材に【2a】で取付け
- 2: 外壁固定用テープのリケイ紙をはがし、フレーム用躯体寄せ取付部材に貼付け

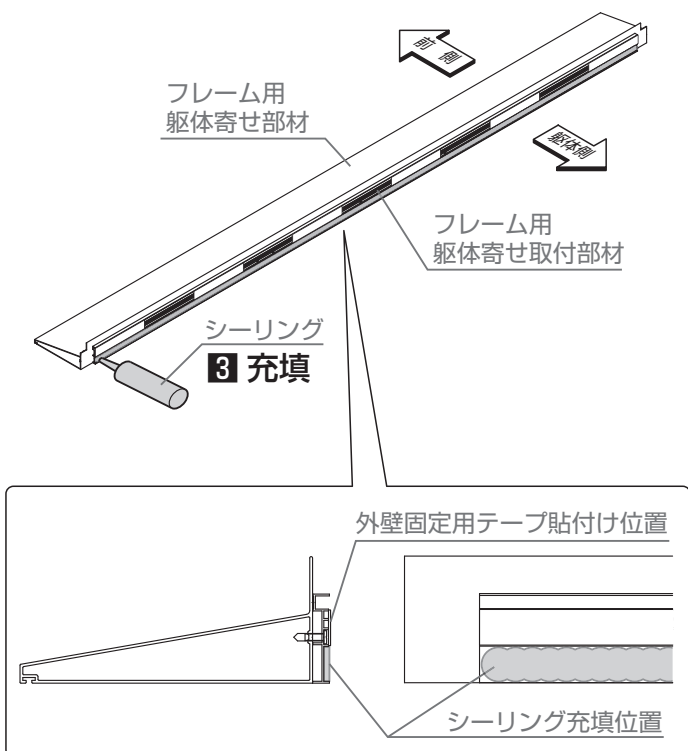


施工上のお願い

- 外壁固定用テープは、端部から貼り始め、テープ1本ぶん程度のピッチをあけて貼ってください。

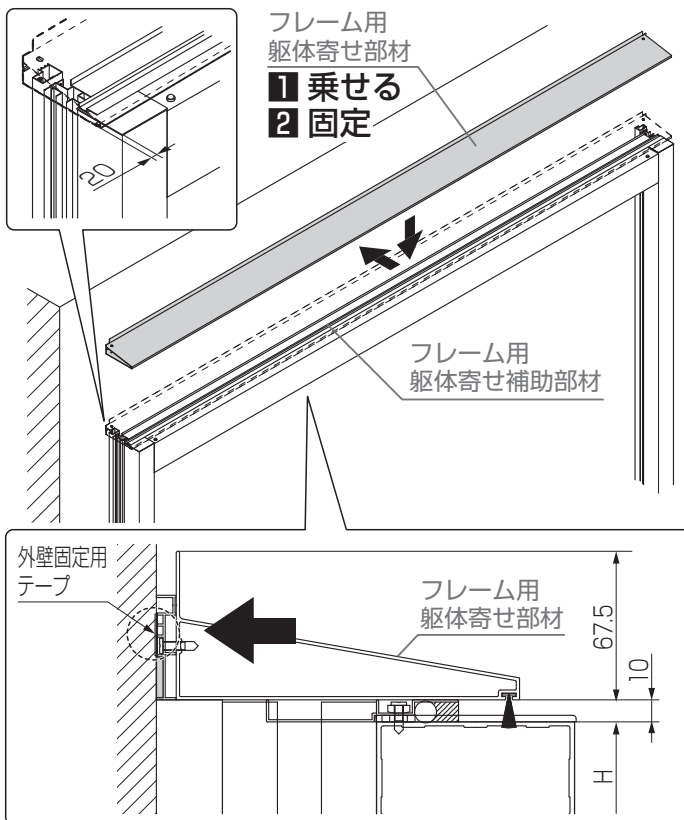


- 3: フレーム用躯体寄せ部材の下部にシーリングを充填



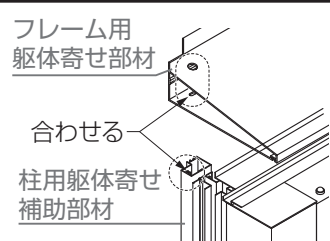
4-6-2 | フレーム用躯体寄せ部材の取付け

- 1: フレーム用躯体寄せ部材をフレーム用躯体寄せ補助部材の上に乗せる
- 2: フレーム用躯体寄せ部材を躯体に外壁固定用テープで固定

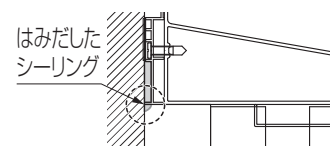


施工上のお願い

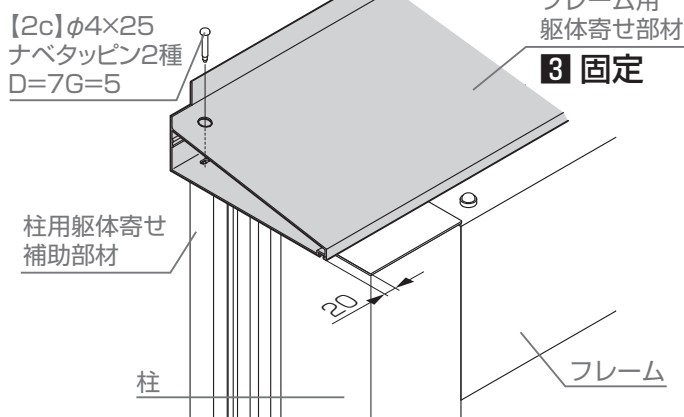
- フレーム用躯体寄せ部材は、部材端部のφ5穴が柱用躯体寄せ補助部材にねじ固定できる位置に合わせて設置してください。



- 取付後、フレーム用躯体寄せ部材の下側にはみ出したシーリングは拭き取ってください。



- 3: フレーム用躯体寄せ部材を柱用躯体寄せ補助部材に【2c】で固定



4 本体の施工

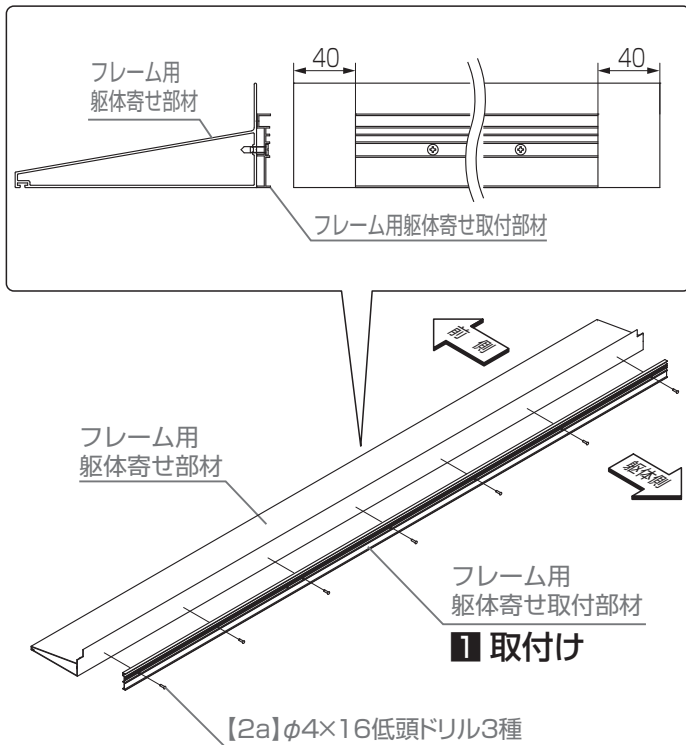
4-7 フレーム部材の取付け (偏心プラグ施工の場合)

施工上のお願い

- P11、12を参照してフレーム用躯体寄せ取付部材とフレーム用躯体寄せ部材に穴加工をあらかじめ行っておいてください。

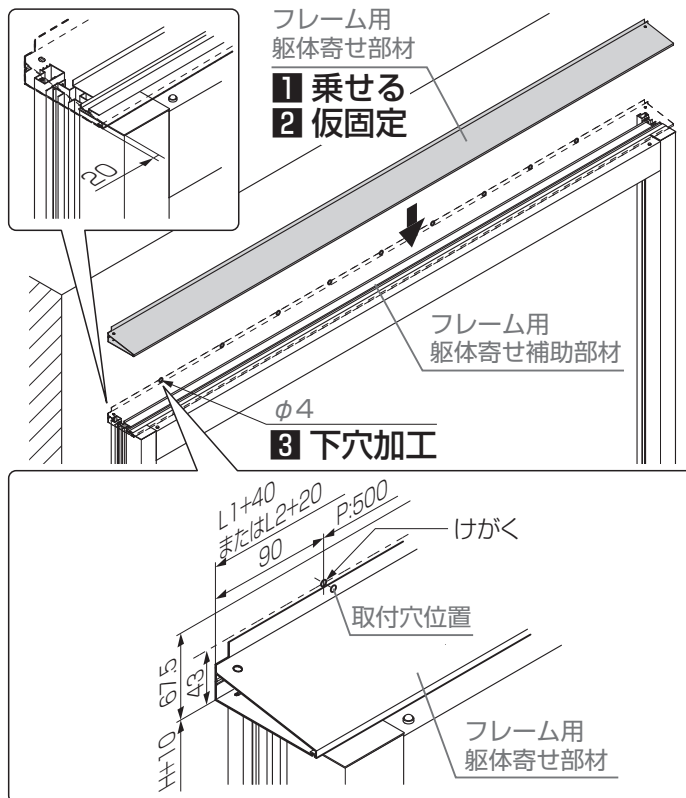
4-7-1 | フレーム用躯体寄せ部材の加工

- 1: フレーム用躯体寄せ取付部材をフレーム用躯体寄せ部材に【2a】で取付け



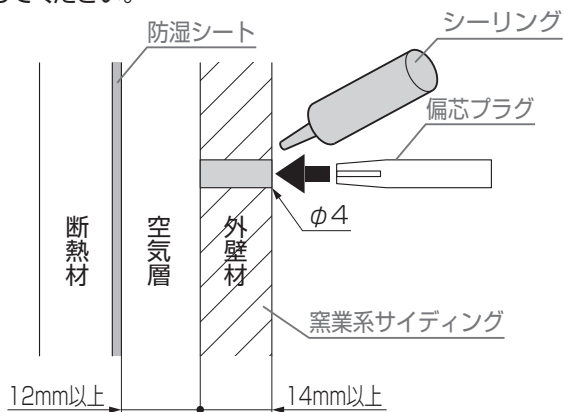
4-7-2 | フレーム用躯体寄せ部材の取付け

- 1: フレーム用躯体寄せ部材をフレーム用躯体寄せ補助部材の上に乗せる
- 2: フレーム用躯体寄せ部材と柱用躯体寄せ補助部材のねじ穴位置を合わせて仮固定
- 3: 躯体の取付け位置をケガいてφ4下穴加工



施工上のお願い

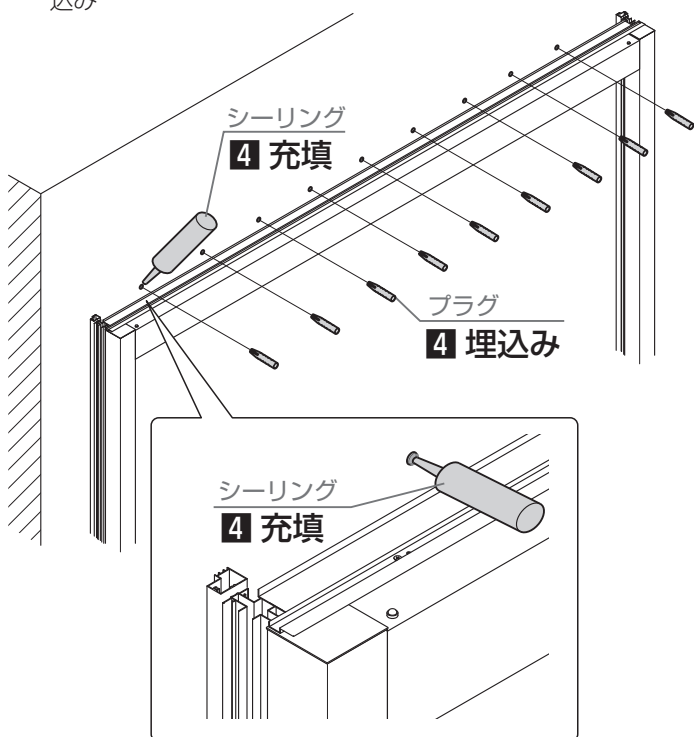
- フレーム用躯体寄せ部材は、部材端部のφ5穴が柱用躯体寄せ補助部材にねじ固定できる位置に合わせて設置してください。
- 躯体に下穴φ4をあける際は、防湿シートを突き破らないようにしてください。



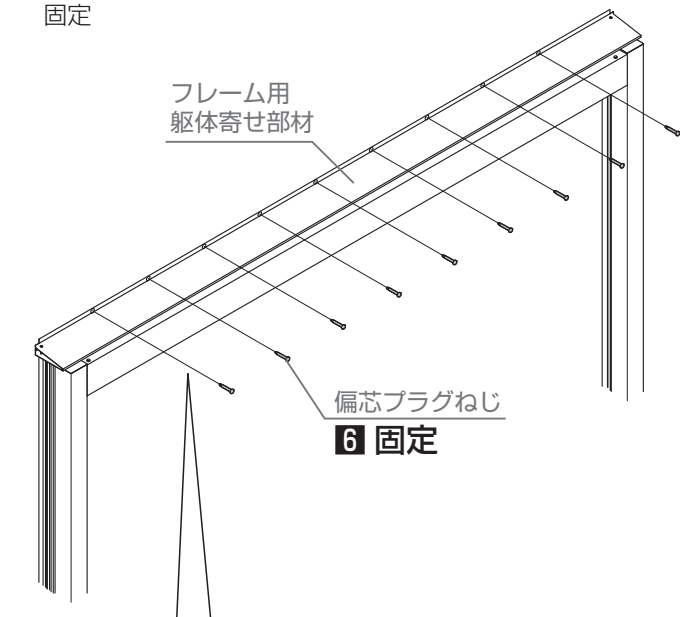
4 本体の施工

4-7 フレーム部材の取付け (偏心プラグ施工の場合)

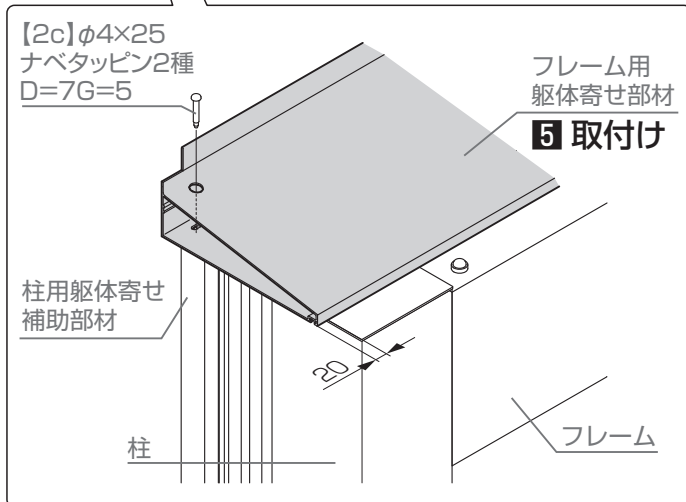
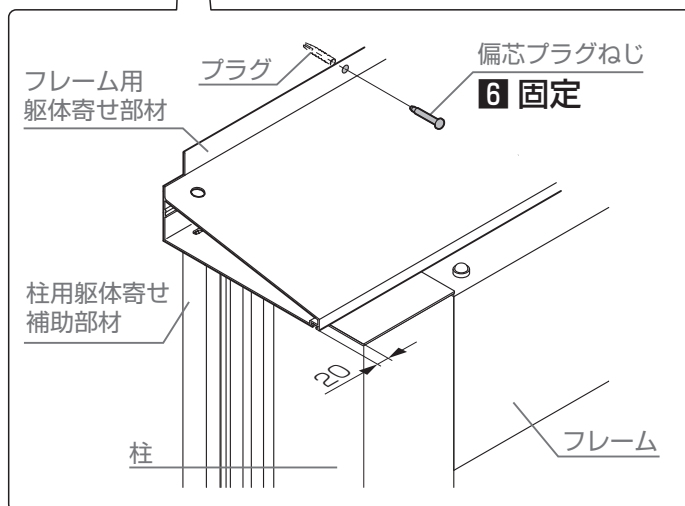
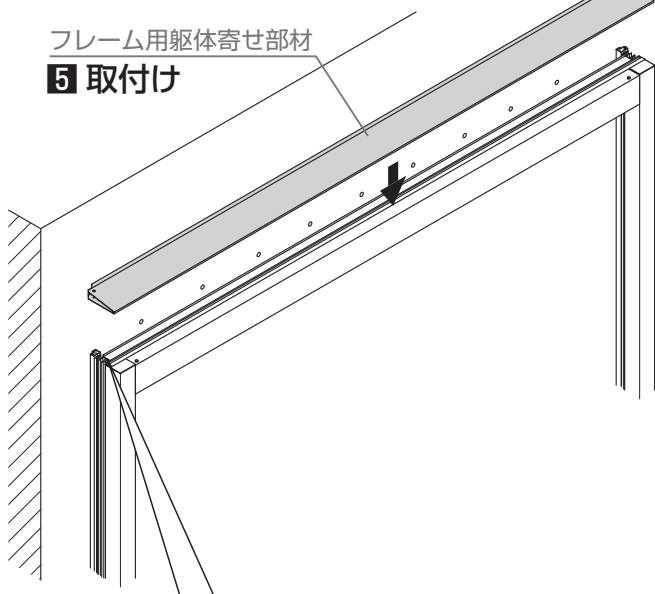
4: 躯体の下穴にシーリングを充填後、偏心プラグのプラグを埋込み



6: フレーム用躯体寄せ部材を躯体のプラグに偏心プラグねじで固定



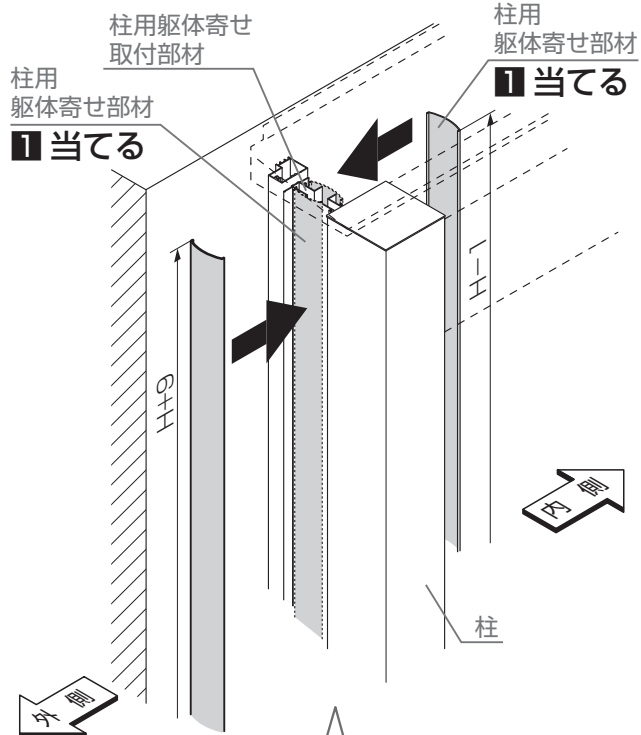
5: フレーム用躯体寄せ部材を柱用躯体寄せ補助部材に【2c】で取付け



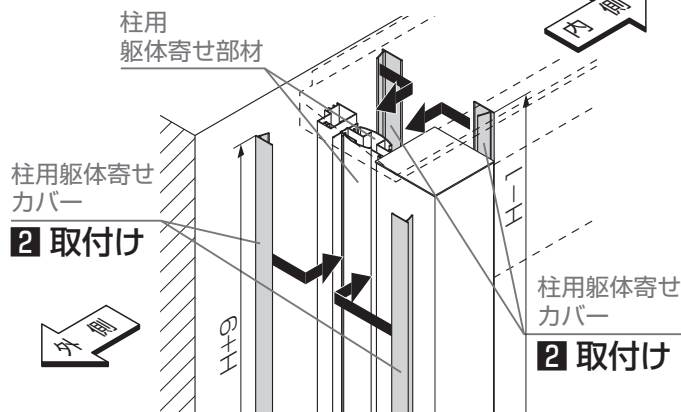
4-8 仕上げ

4-8-1 柱用躯体寄せカバーの取付け

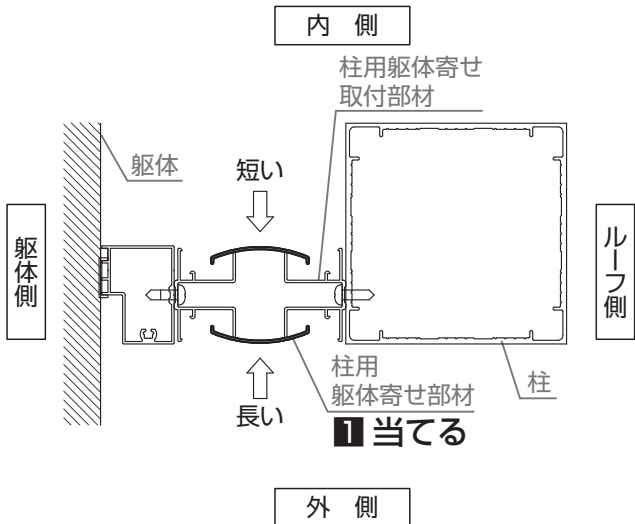
1: 柱用躯体寄せ部材を柱用躯体寄せ取付部材に当てる



2: 柱用躯体寄せ部材を押さえながら、柱用躯体寄せカバーをかん合で取付け

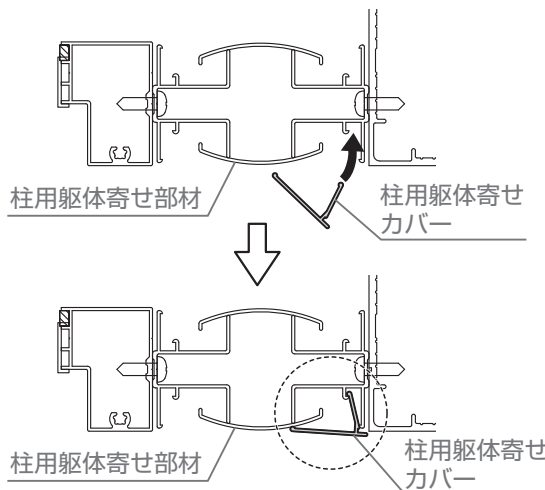


- 図の位置に柱用躯体寄せ部材を当ててください。
- 柱用躯体寄せ部材と柱用躯体寄せカバーには長さの違いがあります。
内側=短い側、外側=長い側になります。

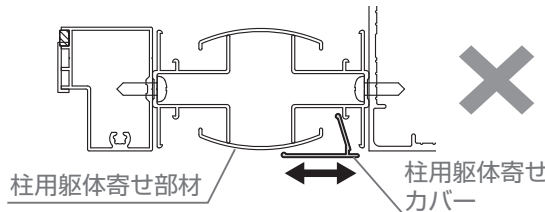


補足

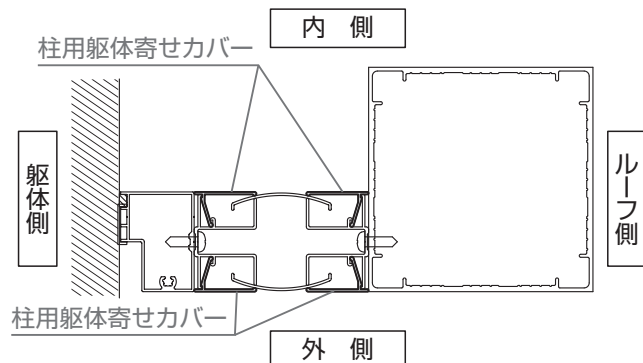
- 柱用躯体寄せカバーは、フィンの先端を取付部材の溝に向けてひねるようにして入れるとかん合しやすくなります。



- 柱用躯体寄せカバーが正しくかん合していない場合、横ずれてはしまうおそれがあります。



- 同様の手順で、1つの柱につき4つの柱用躯体寄せカバーで固定してください。



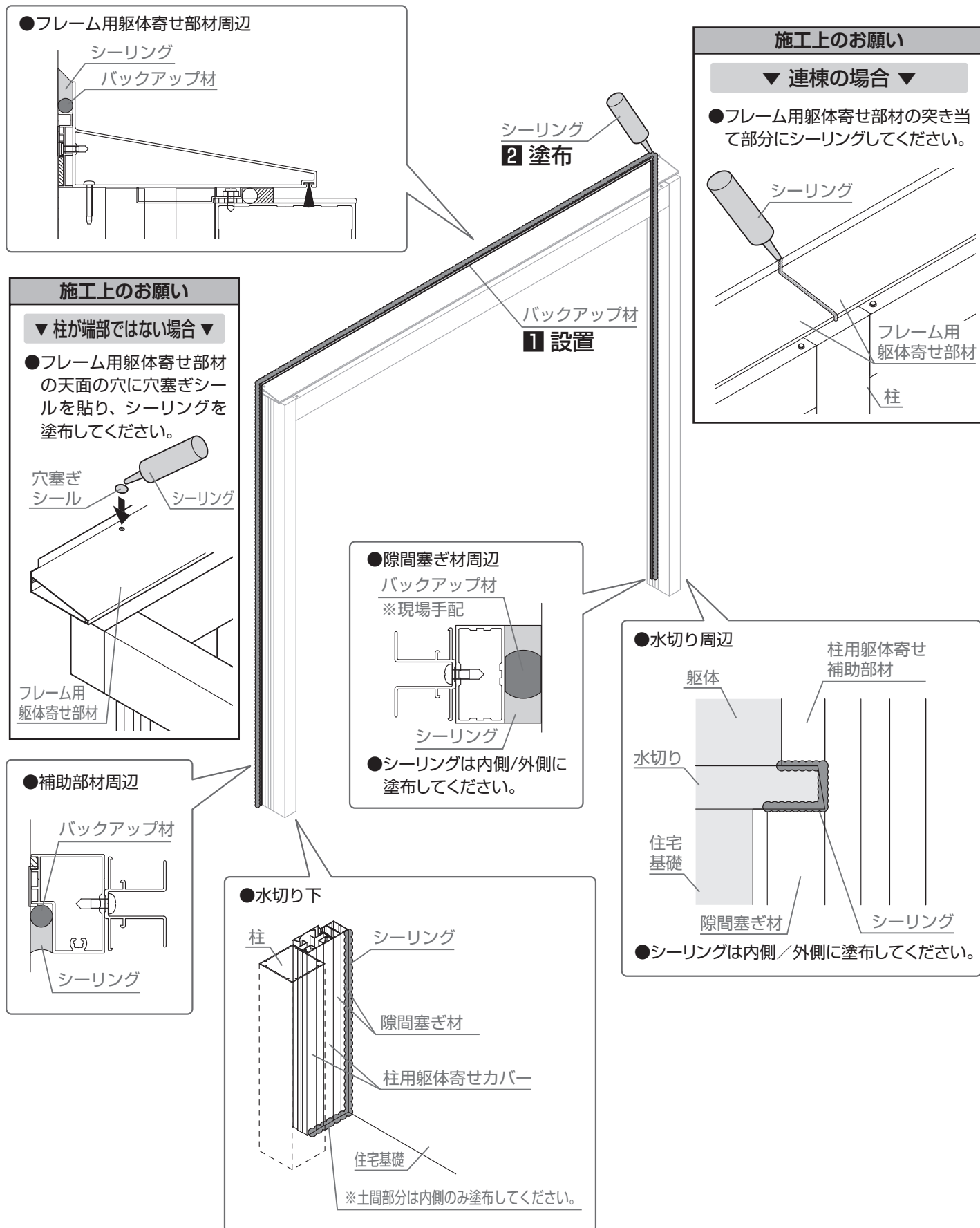
4 本体の施工

4-8 仕上げ

4-8-2 | バックアップ材の取付けとシーリング処理

1: 柱下部(G.L.)から、フレーム用躯体寄せ取付部材、反対側の柱下部(G.L.)まで、1本のバックアップ材を通して設置

2: バックアップ材の上からシーリングを塗布



4 本体の施工

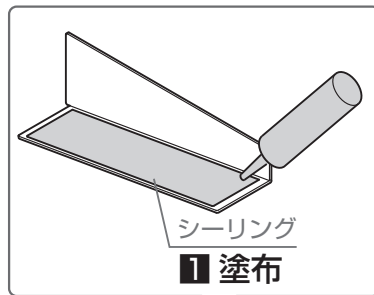
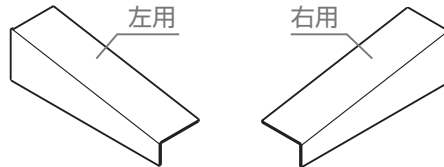
4-8 仕上げ

4-8-3 フレーム用躯体寄せ部材端部キャップの取付け

- 1: フレーム用躯体寄せ部材端部キャップ内側の面にシーリングを塗布
- 2: フレーム用躯体寄せ部材の端部と小口にシーリングを塗布
- 3: フレーム用躯体寄せ部材端部キャップをフレーム用躯体寄せ部材の端部にシーリングで取付け

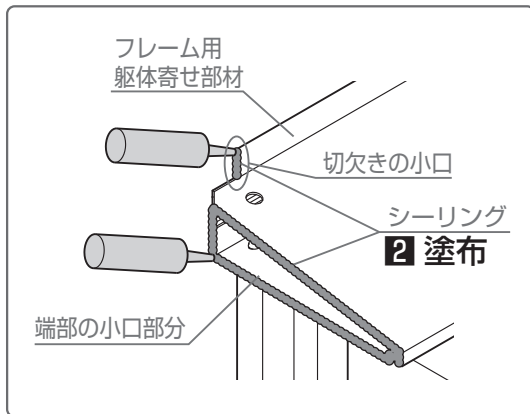
施工上のお願

- キャップには左右があります。取付けの前に確認してください。

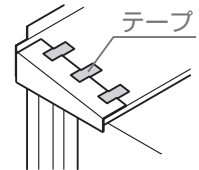


フレーム用躯体寄せ部材
端部キャップ
3 取付け

フレーム用
躯体寄せ部材



- 固定されるまでテープなどで仮固定してください。



※施工完了時にはテープをはがしてください。

